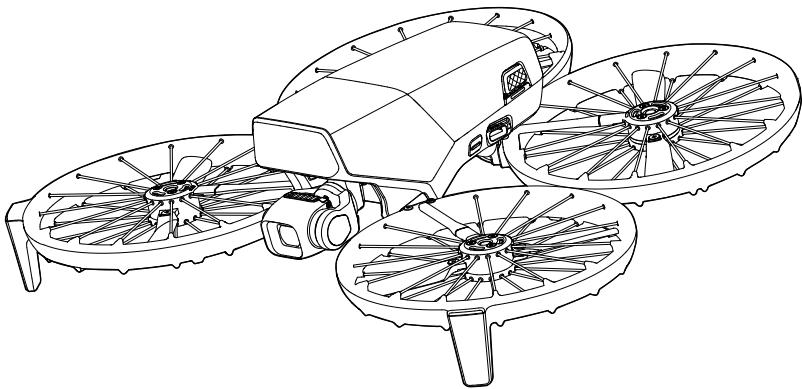


dji FLIP

ユーザーマニュアル

v1.0 2025.01





本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

Q キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

👉 任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

🖨️ 本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠重要

💡ヒントとコツ

📖参考

ご使用前にお読みください

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

- 『安全ガイドライン』
- 『クイックスタートガイド』
- 『ユーザーマニュアル』

すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』をお読みください。初めて使用する前に、必ず『クイックスタートガイド』を確認し、詳細について『ユーザーマニュアル』を参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか QR コードをスキャンすると、チュートリアルビデオを視聴でき、製品の安全な使用方法を知ることができます：



<https://www.dji.com/flip/video>

DJI Fly アプリのダウンロード

飛行中は、必ず DJI Fly アプリを使用してください。QR コードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。



- 💡 • ディスプレイ一体型送信機は、DJI Fly アプリがインストール済みです。画面なしの送信機を使用する場合、DJI Fly アプリをモバイル端末にダウンロードする必要があります。
- DJI Fly がサポートする Android および iOS のオペレーティングシステムのバージョンを確認するには、<https://www.dji.com/downloads/djiapp/dji-fly> を参照してください：
- DJI Fly のインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わることがあります。実際のユーザービークは、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。
-
- * より安全にご使用いただくために、飛行中、このアプリに接続・ログインしていない場合は、飛行高度が 30 m、飛行範囲が 50 m に制限されます。これは DJI Fly および DJI の機体に対応するすべてのアプリに適用されます。

DJI Assistant 2 のダウンロード

DJI Assistant™ 2（一般向けドローン用）のダウンロード先：

<https://www.dji.com/downloads/softwares/dji-assistant-2-consumer-drones-series>

- ⚠️ • この製品の動作環境温度は、-10°C～40°Cで、より大きな環境変動に耐えることができるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55°C～125°C）の条件を満たしていません。製品を適切に操作し、この製品の動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。
-

目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
チュートリアルビデオ	3
DJI Fly アプリのダウンロード	3
DJI Assistant 2 のダウンロード	4
1 製品の特徴	9
1.1 初めてのご使用にあたって	9
機体の準備	9
送信機の準備	11
DJI RC 2	11
DJI RC-N3	12
アクティベーション	12
ファームウェア更新	13
1.2 概要	13
機体	13
DJI RC 2 送信機	14
DJI RC-N3 送信機	15
2 飛行の安全性	17
2.1 飛行制限	17
GEO (Geospatial Environment Online) システム	17
飛行制限	17
飛行高度と距離制限	17
GEO 区域	18
GEO 区域のロック解除	19
2.2 飛行環境の条件	19
2.3 フライト前チェックリスト	20
3 飛行操作	23
3.1 手のひら制御	23
注記	23
切り替えモード	25
手のひら離着陸とスマートスナップ	25
3.2 モバイルアプリでのコントロール	28
注記	28
DJI Flip の接続	29
3.3 RC 制御	29
自動離陸	29

自動着陸	29
モーターの起動／停止	30
モーターの始動	30
モーターの停止	30
飛行中のモーター停止	30
機体の制御	31
離陸／着陸手順	32
インテリジェント フライトモード	32
フォーカストラック	33
マスター・ショット	34
クイック・ショット	35
ハイパー・ラップス	36
クルーズ制御	37
アプリでの音声録音	37
3.4 動画に関する提案とヒント	37
4 機体	40
4.1 フライトモード	40
4.2 機体ステータスインジケーター	41
4.3 ホーム帰還	41
注記	42
開始方法	43
RTH 手順	44
4.4 自動着陸	44
発動方法	45
着陸保護	45
4.5 検知システム	46
注記	46
4.6 プロペラ	48
注記	48
プロペラの交換	49
4.7 インテリジェント フライトバッテリー	51
注記	51
バッテリーの取り付け／取り外し	52
バッテリーの使用	53
バッテリーの充電	54
充電器の使用	55
充電ハブの使用	55
バッテリー保護メカニズム	60
4.8 ジンバルとカメラ	60
ジンバルに関する注記	60
ジンバル操作モード	61

ジンバル角度	61
カメラに関する注記	61
4.9 写真と動画の保存とエクスポート	62
収納	62
エクスポート	62
4.10 クイック転送	63
5 送信機	65
5.1 DJI RC 2	65
操作	65
電源のオン／オフ	65
バッテリーの充電	65
ジンバルとカメラの操作	66
ライトモードスイッチ	66
飛行一時停止／RTH ボタン	66
カスタムボタン	67
送信機の LED	67
ステータス LED	67
バッテリー残量 LED	68
送信機のアラート	68
最適な伝送範囲	68
送信機のリンク	69
タッチ画面の操作	69
5.2 DJI RC-N3	71
操作	71
電源のオン／オフ	71
バッテリーの充電	71
ジンバルとカメラの操作	71
ライトモードスイッチ	72
飛行一時停止／RTH ボタン	72
カスタムボタン	72
バッテリー残量 LED	72
送信機のアラート	73
最適な伝送範囲	73
送信機のリンク	74
6 付録	76
6.1 仕様	76
6.2 互換性	76
6.3 フームウェア更新	76
6.4 フライトレコーダー	77
6.5 アフターサービス情報	77

製品の特徴

1 製品の特徴

1.1 初めてのご使用にあたって



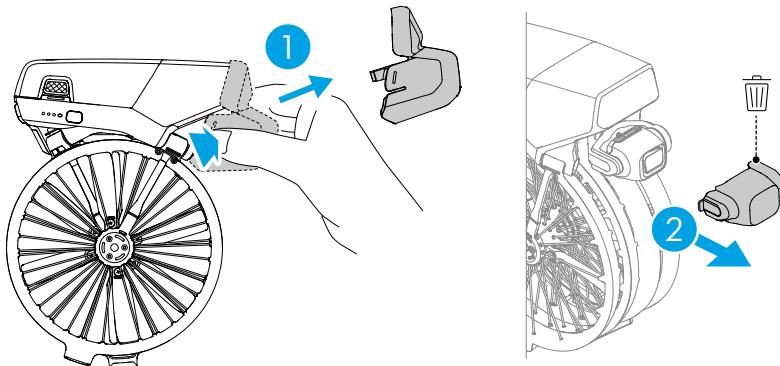
リンクをクリックするか、QRコードをスキャンしてチュートリアルビデオを視聴してください。



<https://www.dji.com/flip/video>

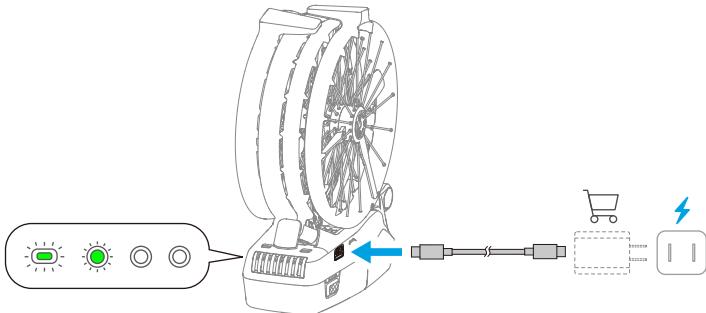
機体の準備

- ジンバルプロテクターを外すには、左右両側を押します。使い捨てのゴムカバーを取り外して、捨てます。

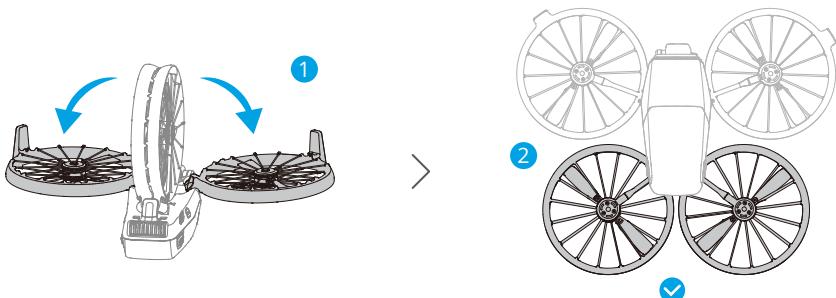


⚠️ • 使い捨てのゴムカバーは、再利用できません。

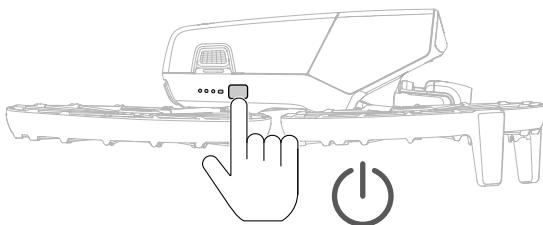
- バッテリーの残量 LED が点灯するまで、バッテリーを充電してください。



3. 図のように、前方アームと後方アームを展開します。



- 自動電源オン**：後方アームのいずれかを展開すると、デフォルトで機体の電源がオンになります。
- 自動電源オフ**：両方の後方アームを折りたたむと、自動的に電源オフのカウントダウンが開始されます。カウントダウン中に、機体上のいずれかのボタンを押すと、電源オフをキャンセルできます。
- 手動電源オン／電源オフ**：機体の電源をオンまたはオフにするには、電源ボタンを押してから、次に長押しします。



- 💡 • アーム展開／折りたたみによる自動オン／オフ機能は、デフォルトで有効になっています。機体が送信機に接続されている場合、DJI Fly でこの機能を無

効にすることができます。機体ファームウェアおよび DJI Fly アプリを最新版に更新してください。更新をしないと、機能が利用できないことがあります。

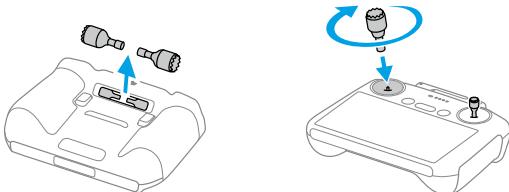
- ・ 機体がアルバムにアクセス中、データをダウンロード中、またはファームウェアを更新中の場合、両方の後方アームを折りたたんでも機体の電源は切れません。
- ・ 現在の飛行中に衝突が発生した場合、自動電源オフ機能はこの飛行では機能しません。

- △
- ・ ジンバルプロテクターを取り外し、すべてのアームを広げてから、機体の電源を入れてください。この手順に従わないと、機体の自己診断テストに影響が出る恐れがあります。
 - ・ 機体を使用しないときは、ジンバルプロテクターを取り付けておくことをお勧めします。

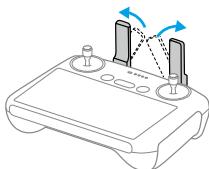
送信機の準備

DJI RC 2

- 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。



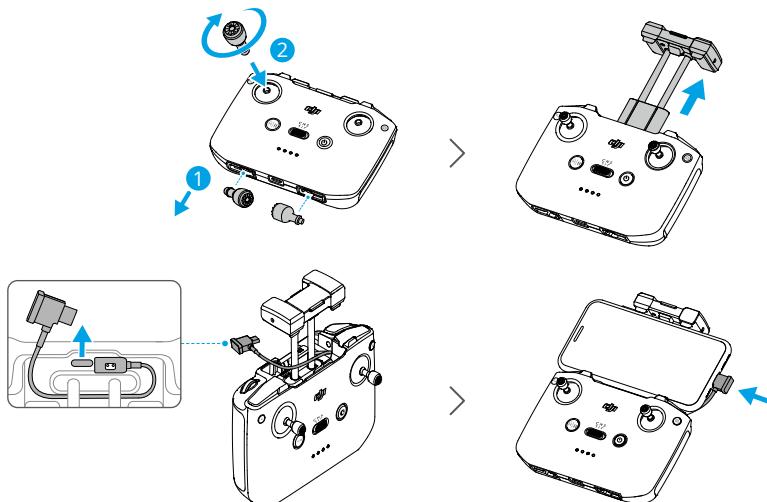
- アンテナを展開します。



- 初めて使用する場合、送信機のアクティベーションが必要です。アクティベーションする際は、インターネットへの接続が必要になります。電源ボタンを1回押した後、長押し押して送信機の電源を入れます。画面の指示に従って、送信機をアクティベーションします。

DJI RC-N3

- 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。
- モバイル端末ホルダーを引き出します。ご使用のモバイル端末のポートの種類に基づき、適切な送信機ケーブル（USB-C コネクター付きケーブルがデフォルトで接続されています）を選択します。ご使用のモバイル端末をホルダーに装着し、送信機ロゴのない方のケーブルの端をモバイル端末に接続します。モバイル端末がしっかりと固定されていることを確認してください。



- ⚠️**
- Android モバイル端末の使用時に USB 接続プロンプトが表示された場合は、「充電のみ」を選択してください。それ以外を選択すると、接続が失敗する場合があります。
 - モバイル端末ホルダーを調整して、モバイル端末がしっかりと固定されるようにします。

アクティベーション

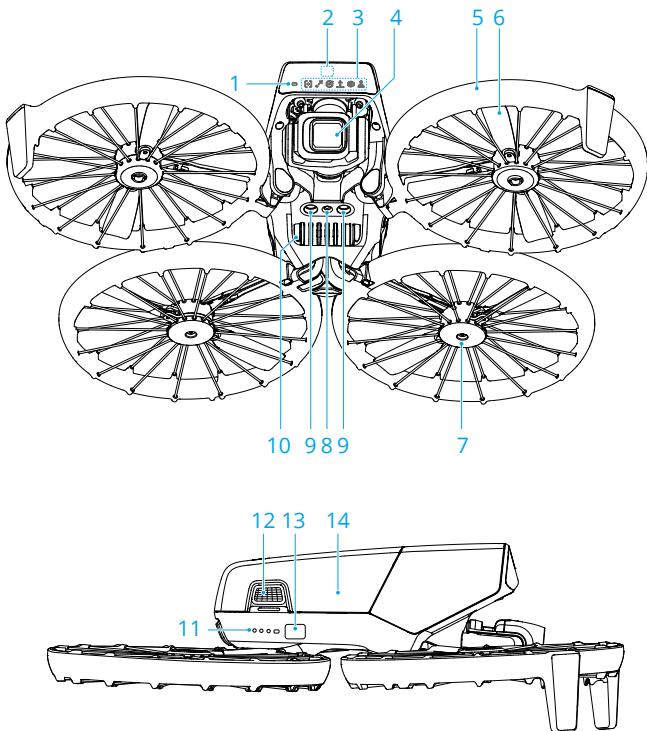
初めて使用する前に、機体をアクティベーションする必要があります。1回電源ボタンを押し、次に長押しして機体と送信機それぞれの電源を入れ、画面上のプロンプトに従って DJI Fly を使用して、機体をアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

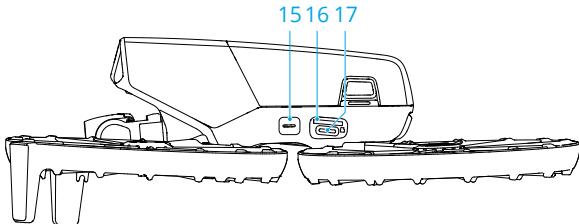
ファームウェア更新

ファームウェア更新が利用できる場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。最適なユーザー エクスペリエンスを得るために、プロンプトが表示されたら、ファームウェアを更新してください。

1.2 概要

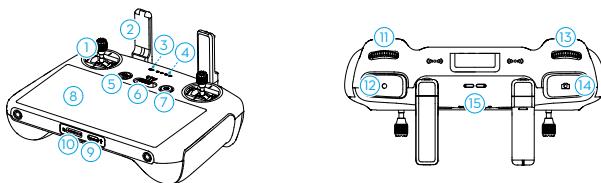
機体



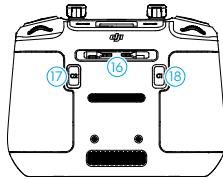


- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 機体ステータスインジケーター | 10. スピーカー |
| 2. 前方 3D 赤外線検知システム | 11. バッテリー残量 LED |
| 3. モード インジケーター | 12. バッテリーバックル |
| 4. ジンバルカメラ | 13. 電源ボタン |
| 5. 機体アーム | 14. インテリジェント フライトバッテリー |
| 6. プロペラ | 15. モードボタン |
| 7. モーター | 16. microSD カードスロットロット |
| 8. 下方ビジョンシステム | 17. USB-C ポート |
| 9. 下方赤外線検知システム | |

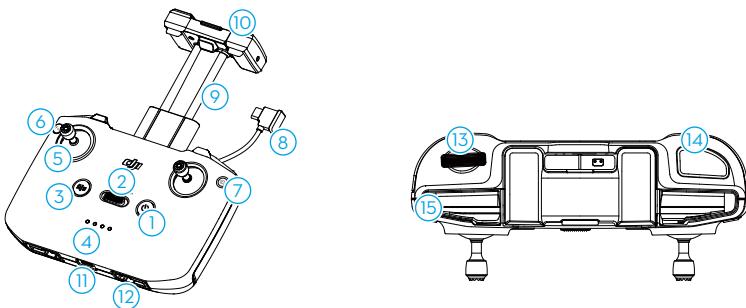
DJI RC 2 送信機



- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| 1. 操作スティック | 10. microSD カードスロット |
| 2. アンテナ | 11. ジンバルダイヤル |
| 3. ステータス LED | 12. 録画ボタン |
| 4. バッテリー残量 LED | 13. カメラ制御ダイヤル |
| 5. 飛行一時停止／RTH (Return-to-Home) ボタン | 14. フォーカス／シャッターボタン |
| 6. フライトモードスイッチ | 15. スピーカー |
| 7. 電源ボタン | 16. 操作スティック収納スロット |
| 8. タッチスクリーン | 17. カスタムボタン C2 |
| 9. USB-C ポート | 18. カスタムボタン C1 |



DJI RC-N3 送信機



- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1. 電源ボタン | 8. 送信機ケーブル |
| 2. フライトモードスイッチ | 9. モバイル端末ホルダー |
| 3. 飛行一時停止／RTH (Return-to-Home) ボタン | 10. アンテナ |
| 4. バッテリー残量 LED | 11. USB-C ポート |
| 5. 操作スティック | 12. 操作スティック収納スロット |
| 6. カスタムボタン | 13. ジンバルダイヤル |
| 7. 静止画／動画ボタン | 14. シャッター／録画ボタン |
| | 15. モバイル端末スロット |

飛行の安全性

2 飛行の安全性

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行の練習を行っておくことをお勧めします。以下の飛行要件と制限に従って、飛行に適したエリアを選択してください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。本製品を安全に使用するために、飛行前に『安全ガイドライン』をお読みください。

2.1 飛行制限

GEO (Geospatial Environment Online) システム

DJI GEO (Geospatial Environment Online) システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域での UAV の飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。飛行の前に、目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を提出する必要があります。GEO システムは、現地の法律や規制に完全に準拠していない場合があります。ご自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでのロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEO システムについての詳細は、次のサイト <https://fly-safe.dji.com> をご覧ください。

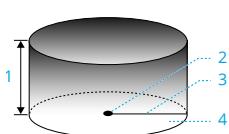
飛行制限

安全上の理由から、初期状態では飛行制限が有効になっており、機体を安全に使用できるようになっています。飛行制限の高度と距離を設定できます。全地球測位衛星システム (GNSS) が使用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO 区域の機能が同時に働き、飛行安全性を管理します。GNSS が利用できない場合、高度のみ制限できます。

飛行高度と距離制限

最大高度は機体の飛行高度を制限し、最大距離は機体のホームポイント周辺の飛行半径を制限します。飛行安全性向上のために、DJI Fly アプリでこれらの制限を変更できます。

- 💡 • 手のひら制御およびモバイルアプリ制御を使用する場合、最大飛行高度は 30 m、最大飛行距離は 50 m です。これらの制限は、DJI Fly アプリでは変更できません。次の情報は、送信機を使用して機体を使用する場合に適しています。



1. 最大高度
2. ホームポイント（水平位置）
3. 最大距離
4. 離陸時の機体の高度

強い GNSS 信号

	飛行制限	DJI Fly アプリでのプロンプト
最大高度	機体の高度は、DJI Fly で設定された値を超えることはできません。	最大飛行高度に到達
最大距離	機体からホームポイントまでの直線距離は、DJI Fly で設定された最大飛行距離を超えることはできません。	最大飛行距離に到達しました。

弱い GNSS 信号

	飛行制限	DJI Fly アプリでのプロンプト
最大高度	<ul style="list-style-type: none"> 十分に明るい場合、高度は離陸地点から 30 m の高さに制限されます。 明るさが不十分で赤外線検知システムが機能している場合、高度は地表 2 m の高度に制限されます。 明るさが不十分で赤外線検知システムが機能していない場合、高度は離陸地点から 30 m の高さに制限されます。 	最大飛行高度に到達
最大距離	制限なし	

- ⚠️
- 機体の電源を入れるたびに、GNSS 信号が強くなっている限り (GNSS 信号強度 ≥ 2)、2 m または 30 m の高度制限は自動的に解除され、その後 GNSS 信号が弱くなても制限は有効になりません。
 - 機体が慣性によって設定された飛行範囲を超えて飛行した場合、機体を操縦することはできますが、それ以上遠くに飛ばすことはできません。

GEO 区域

DJI GEO システムは、安全な飛行場所を指定し、個々の飛行のリスクレベルと安全に関する注意、および制限空域情報を提供します。すべての飛行制限エリアは GEO 区域と呼ばれ、さらに制限区域、承認区域、警告区域、強化警告区域、高度制限区域に分けられます。DJI Fly では、これらの情報をリアルタイムで表示できます。GEO 区域には、空港、大規模なイベントの会場、公衆衛生上の緊急事態（山火事など）が発生した地域、原子力発電所、刑務所、国有財産、軍事施設がありますが、これらに限定されません。デフォルトでは、GEO システムは、安全またはセキュリティ上の懸念につながる可能性のある区域への離陸または区域内での飛

行を制限します。世界中の GEO 区域に関する包括的な情報を含む GEO 区域マップは、DJI 公式サイトにあります：<https://fly-safe.dji.com/nfz/nfz-query>。

GEO 区域のロック解除

さまざまなユーザーのニーズを満たすために、DJI ではセルフロック解除およびカスタムロック解除の 2 つのロック解除モードを用意しています。DJI Fly Safe のウェブサイトから申請できます。

セルフロック解除は承認区域でのロック解除を目的としています。セルフロック解除を完了するには、安全飛行に関する DJI Fly Safe のウェブサイト <https://fly-safe.dji.com> からロック解除申請を送信する必要があります。ロック解除申請が認証されると、DJI Fly アプリからライセンスロック解除を同期できます。該当区域のロックを解除するには、認証された承認区域内で機体を直接離陸または飛行して、DJI Fly のプロンプトに従って該当区域のロックを解除します。

カスタムロック解除は、特別な要件を持つユーザー向けに用意されています。ユーザーによって定義されたカスタム飛行エリアを指定し、さまざまなユーザーのニーズにあわせた個別の飛行許可書を提供します。このロック解除オプションは、すべての国と地域で利用でき、安全飛行に関する DJI Fly Safe ウェブサイト <https://fly-safe.dji.com> から申請できます。

- ⚠ • 飛行の安全を確保するため、機体はロック解除区域に入った後、その区域から外に出ることはできません。ホームポイントがロック解除区域外にある場合、機体はホームに帰還できません。

2.2 飛行環境の条件

- 強風、雪、雨、霧などの悪天候での飛行は避けてください。
- 飛行は周囲が開けた場所でのみ行ってください。高い建物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスや GNSS システムの精度に影響を及ぼす場合があります。そのため、バルコニーや、建物から 15 m 以内の場所からは離陸させないでください。飛行中は、建物から少なくとも 15 m 離れているようにしてください。離陸後、飛行を継続する前に、「ホームポイントが更新された」というプロンプトの通知があったことを確認してください。機体が建物の近くで離陸した場合、ホームポイントの精度は保証されません。この場合、自動 RTH 中、機体の現在位置に細心の注意を払ってください。機体がホームポイントに接近したら、自動 RTH をキャンセルし、機体を手動でコントロールして、適切な場所に機体を着陸させることを推奨します。
- 機体は、目視内（VLOS）でのみ飛行させてください。GNSS 信号を遮る山や木を避けて飛行してください。障害物、人混み、森林、および水域での飛行は避けてください（推奨高度は水面から少なくとも 6 m です）。安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄

道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くでは、現地の規則による許可や承認がない限り、機体を飛行させないでください。

4. GNSS 信号が弱い場合は、周囲が明るく視界が良好な環境で機体を飛行させてください。ビジョンシステムは、周囲の明るさが不十分な場合、正しく機能しない場合があります。機体は日中にのみ飛行させてください。
5. 高レベルの電磁波を発する送電線、基地局、変電所、放送用電波塔などのあるエリアを避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。
6. 高い高度で飛行する場合、機体とそのバッテリーの性能は制限されます。慎重に飛行してください。認可を受けた高度を超えて飛行しないでください。
7. 機体の制動距離は、飛行高度の影響を受けます。高度が高いほど、制動距離も長くなります。高高度で飛行する際は、十分な制動距離を確保し、飛行の安全を確保してください。
8. 南極圏、北極圏で機体の GNSS を使用することはできません。代わりにビジョンシステムを使用してください。
9. 車、船、飛行機などの動いている物体から離陸させないでください。
10. 単色（全体が同一色）の表面や、車の屋根など反射の強い表面から離陸させないでください。
11. 砂漠や砂浜のような砂のある場所では、離着陸をしないでください。芝生や落ち葉のある路面、またはその他の小さくて軽いものの上では、離着陸しないでください。これは、砂、草、葉などの異物が機体の部品に入り込んで、モーター、ジンバル、プロペラに損傷を与えるのを防ぐためです。
12. 発火や爆発の危険性のある場所で、機体を操作しないでください。
13. 機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブは、乾いた環境で運用してください。
14. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐、塩水噴霧、菌類を伴う環境下では、機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブを使用しないでください。
15. 鳥の群れ付近で機体を操作しないでください。

2.3 フライト前チェックリスト

1. 機体から保護部品を取り外します。
2. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
3. 送信機、モバイル端末、インテリジェント フライトバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
4. 機体のアームが展開していること確認してください。

5. ジンバルとカメラが正常に機能することを確認してください。
6. モーターの動きを妨げるものなく、モーターが正常に機能することを確認してください。
7. DJI Fly が機体に正しく接続されていることを確認してください。
8. すべてのカメラレンズとセンサーに汚れがないことを確認してください。
9. DJI の純正部品または DJI が認定する部品のみをご使用ください。認定されていない部品を使用すると、システムに不具合が発生し、飛行安全性が損なわれるおそれがあります。
10. 障害物回避アクションが DJI Fly で設定されていること、**最大飛行高度**、**最大飛行距離**、**オート RTH 高度**のすべてが現地の法律や規制に従って適切に設定されていることを確認してください。

飛行操作

3 飛行操作

DJI Flip はさまざまなシーンに対応するため、ニーズに合わせて複数の制御方法に対応しています。飛行の前に、各制御方法の注意事項や使用方法をよく確認してください。

- ⚠** • 飛行中の DJI Flip には触れないでください。飛行中に接触すると、DJI Flip がドリフトして衝突が発生する可能性があります。
- 衝突したり、激しく衝撃を受けたり、激しく揺れたりした直後は、DJI Flip を飛行させないでください。DJI Flip は安定した飛行ができない可能性があります。

3.1 手のひら制御



以下のリンクをクリックするか、QR コードをスキャンしてチュートリアルビデオを視聴してください。



<https://www.dji.com/flip/video>

手のひら制御では、手のひらでの離着陸がサポートされます。DJI Flip のモードボタンを使うことで、複数のスマートスナップが可能です。被写体を確認した後、DJI Flip は自動的に録画をしながら飛行します。Wi-Fi 機能を使って DJI Fly アプリに接続し、各モードのパラメーターを調整します。例としてデフォルトの設定を使用しています。

注記

- 💡** • 手のひら制御を使用する前に、機体に接続されている送信機の電源を切ってください。
- ⚠** • 飛行環境が飛行条件を満たしていること、および問題が発生したときや緊急時にはすぐに DJI Flip を制御して、回収できることを確認してください。DJI が事故の原因を分析できない場合、DJI は保証やその他のアフターサービスを提供できない可能性があります。
- 手のひら制御を使用する前に、DJI Flip が Wi-Fi 経由でスマートフォンの DJI Fly に接続されていることを確認してください。アプリを使用しないで手のひら制御を使用

する場合において、飛行中に DJI Flip が故障した場合、事故を避けるため、Wi-Fi 経由で DJI Fly に接続し、手動で制御することを選択できます。

- 信号が干渉を受けない、障害物がなく開けた環境で飛行するようにしてください。
- 手のひら制御を使用する場合、DJI Flip の最大飛行高度は 30 m、最大飛行距離は 50 m です。
- 手のひら制御では RTH (Return to Home) はサポートされていません。管理区域内では目視内飛行 (VLOS) を維持してください。
- 水上では飛行させないでください。
- 以下の状況では、DJI Flip は自動に着陸します。着陸による DJI Flip の紛失や破損を防ぐため、使用環境を必ず守ってください。
 - バッテリー残量の著しい低下。
 - 測位に失敗し、DJI Flip が ATTI モードに入ったとき。
 - DJI Flip が衝突を検知したがクラッシュしなかったとき。
- 手のひらで離着陸するときは、以下のルールを守ってください：
 - 可能な限り無風の環境で DJI Flip を操作してください。
 - 離陸の際は、機体の側面を下から押させてください。プロペラの回転範囲内に指を入れないでください。手のひらを広げて離陸させる場合は、プロペラに触れないように指を十分に伸ばしてください。
 - 移動しながら、離着陸を行わないでください。飛行中に接触すると、DJI Flip がドリフトして衝突が発生する可能性があります。着陸の際、手が動いていると、DJI Flip がモーターを止められないことがあります。
 - 離陸の際、DJI Flip を投げないでください。
 - DJI Flip を手でつかまないでください。
 - 手のひらの上に着地させるには、着地後に落ちないように DJI Flip の真下に手を置きます。
 - 着陸の際は、機体の下に手を配置し、機体が着陸するのを待ちます。指先がプロペラに接触しないように、指を十分に伸ばしてください。着陸時には、機体の側面をつかまないでください（離陸時とは異なります）。
 - 十分な照度と、十分な構造のある表面を備えた環境で離陸せます。現在の場所と照度が大きく異なる環境へは飛行させないでください。
 - DJI Flip が手のひら離着陸に失敗した場合は、トラブルシューティングのため DJI Flip の音声プロンプトに従うか、DJI Fly アプリに接続して詳細を確認してください。音声プロンプトは、最新の接続におけるアプリの言語設定に従って、英語または中国語（北京語）をサポートします。その他の言語はサポートされていません。

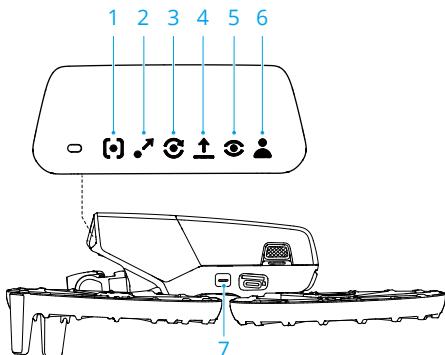
切り替えモード

モードボタンを一度押してモードを切り替えます

モードを切り替えると、DJI Flip は選択したモードを音声で案内し、対応するモード インジケーターが点灯します。

長押しすると、手のひら離陸を実行します。

手のひら離陸をキャンセルするには、カウントダウンの音声プロンプトが終了する前にモードボタンを1回押します。



1. [人] フォロー
2. [♂] ドローニー
3. [◎] サークル
4. [↑] ポケット
5. [睛] スポットライト
6. [👤] カスタム
 - DirectionTrack
 - ヘリックス
 - ブーメラン
7. モードボタン

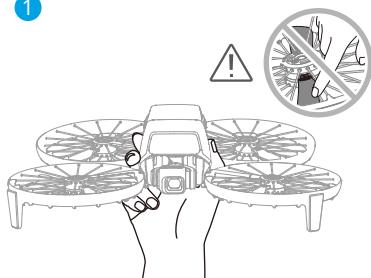
手のひら離着陸とスマートスナップ

- ⚠**
- スマートスナップの使用に際しては、地域のプライバシー法令に必ず従ってください。
 - スマートスナップは人物の追跡のみをサポートしています。

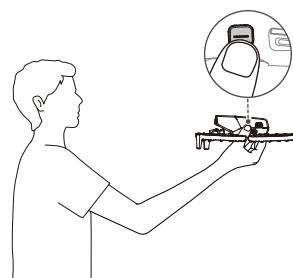
- 手のひら制御、モバイルアプリ制御、RC 制御では、手のひら離着陸がサポートされています。違いは、RC 制御を使用する場合、手のひら制御のスマートスナップがサポートされず、離陸前に被写体の確認が不要になることです。

- DJI Flip の電源をオンにします。そのままの状態で、システムの自己診断が完了するのを待ちます。
- 距離や高さなど、事前に設定されたパラメーターに従って操縦できるように、十分なスペースを確保してください。モードボタンを押して、希望のモードを選択します。
- 手のひら離陸を使用するには以下の手順に従ってください。

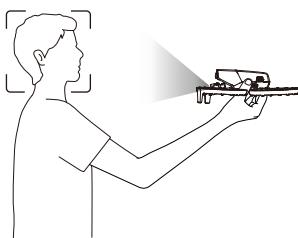
1



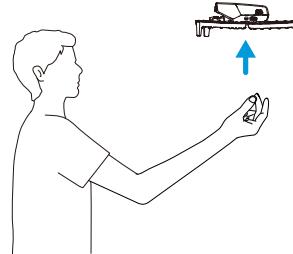
2



3



4



- 手のひら離陸には、被写体の確認が必要です。機体の側面を下から持ち、カメラを被写体に向けます。手がカメラを遮らないようにし、離陸を妨げる障害物がないことを確認してください。

⚠ • プロペラの回転範囲内に指を入れないでください。

- 腕を伸ばし、カメラを被写体に向け、安定させます。モードボタンを長押しします。DJI Flip は選択されたモードとカウントダウンを音声で案内し、その後自動的に離陸します。

💡 • 被写体が障害物に遮られていた場合や、環境の照度が適切でない場合は、離陸に失敗することがあります。

- 手のひら離陸をキャンセルするには、カウントダウンの音声プロンプトが終了する前にモードボタンを1回押します。
 - 手のひら離陸を使用する場合、DJI Flip は、離陸後に、短い距離を後方に飛行します。飛行の安全性を確保するため、DJI Flip の後方に注意を払ってください。
4. DJI Flip は、選択したモードとプリセットパラメーターに従って、録画を開始したり写真を撮影したりします。
5. 手のひら着陸：

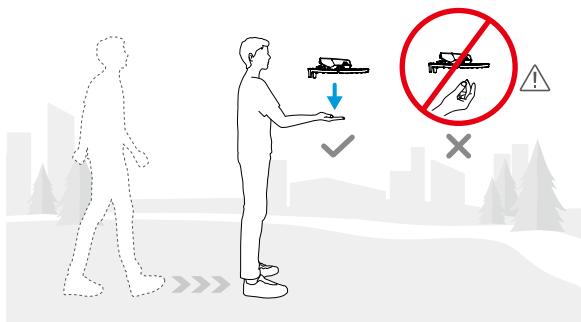
DirectionTrack モードで、DJI Flip の方を向き、静止します。DJI Flip が前方に飛行するのを待ってから、手のひら着陸を行います。

他のモードでは、DJI Flip がその場でホバリングしていることを確認してから、それに向かって移動し、手のひら着陸を行います。

以下の指示に従って手のひら着陸を行ってください。

- DJI Flip がその場でホバリングしていることを確認します。DJI Flip の方に移動して、腕を伸ばし、その真下に手を置きます。
- 手を動かさないでください。指先がプロペラに接触しないように、指を十分に伸ばしてください。DJI Flip が自動的に着陸するのを待ちます。

- ⚠ 着陸の際は、機体の下に手を配置し、機体が着陸するのを待ちます。指先がプロペラに接触しないように、指を十分に伸ばしてください。着陸時には、機体の側面をつかまいでください（離陸時とは異なります）。



- 💡 手のひら着陸中、DJI Flip はわずかに上昇してから、手のひらに着地することがあります。プロセス中、手を静止させて、指を伸ばします。

6. DJI Flip を DJI Fly に接続して、映像を見たり、ショートビデオを制作したりできます。
- 💡 フォロー、スポットライト、DirectionTrack モードでは、録画中にカメラが被写体を見失った場合、DJI Flip はその場でホバリングします。Wi-Fi を経由してスマート

フォン上で DJI Fly を実行すると、飛行中に DJI Flip に接続します。接続するには、スマートフォンが事前に DJI Fly に接続されている必要があります。[制御] (Controls) ビューで、タスクがすでに停止していることを確認し、モードリストからマニュアル制御を選択し、バーチャルジョイスティックを使って DJI Flip を着陸させます。

3.2 モバイルアプリでのコントロール



以下のリンクをクリックするか、QR コードをスキャンしてチュートリアルビデオを視聴してください。



<https://www.dji.com/flip/video>

モバイルアプリ制御を使用するには、Wi-Fi 経由で DJI Flip をスマートフォンの DJI Fly アプリに接続し、アプリで DJI Flip を制御します。モバイルアプリ制御では、手のひら制御のすべての機能が利用可能です。アプリ内でパラメーターを設定し、スマートスナップを実行することができます。マニュアル制御、音声録音、音声制御など、より多くの機能にも対応しています。

注記

- 💡 • モバイルアプリ制御を使用する前に、機体に接続されている送信機の電源を切ってください。電源がオフになっていない場合、スマートフォンが Wi-Fi 経由で接続され、アプリの [制御] (Controls) ビューが開かれると、機体は他のデバイスから自動的に切断されます。
- ⚠️ • 信号が干渉を受けない、障害物がなく開けた環境で飛行するようにしてください。干渉を受けると、アプリが DJI Flip から切断される可能性があり、飛行の安全性に影響を与える可能性があります。
- モバイルアプリ制御を使用する場合、DJI Flip の最大飛行高度は 30 m、最大飛行距離は 50 m です。
- モバイルアプリ制御では RTH (Return to Home) はサポートされていません。管理区域内では目視内飛行 (VLOS) を維持してください。

- 水上では飛行させないでください。
- 以下の状況では、DJI Flip は自動に着陸します。着陸する際に DJI Flip の紛失や破損を防ぐため、使用環境を必ず守ってください。
 - バッテリー残量の著しい低下。
 - 測位に失敗し、DJI Flip が ATTI モードに入ったとき。
 - DJI Flip が衝突を検知したがクラッシュしなかったとき。

DJI Flip の接続

- DJI Flip の電源をオンにして、システムの自己診断が完了するまで待ちます。
- スマートフォンの Bluetooth、Wi-Fi、位置情報サービスを有効にします。
- アプリのホーム画面右下にある接続ガイドをタップし、デバイスマodelを選択し、モバイルデバイス経由で接続を選択します。
- 検索結果から目的のデバイスを選択します。接続に成功すると、[制御] (Controls) ビューが表示されます。初めてスマートフォンを DJI Flip に接続する時、DJI Flip の電源ボタンを長押しして、接続を確定してください。

- 💡 • また、DJI Fly のホーム画面で、[クイック転送] または [Wi-Fi デバイス] パネルをタップして、Wi-Fi 接続をすることもできます。
- DJI Flip に接続するスマートフォンを変更するには、DJI Flip を新しいスマートフォンに接続する前に、現在接続しているスマートフォンの Bluetooth および Wi-Fi を無効にしてください。

3.3 RC 制御

自動離陸

- DJI Fly を起動して、カメラビューに入ります。
- フライト前チェックリストの手順をすべて完了します。
- ▲をタップします。安全に離陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
- 機体は離陸し、地上でホバリングします。

自動着陸

- 安全に着陸できる状態である場合は、❖をタップし、次に⬇を長押しして確定します。

2. ✕ をタップすると、自動着陸をキャンセルできます。
3. 下方ビジョンシステムの動作が正常であれば着陸保護が有効化されます。
4. 着陸後、モーターは自動で停止します。

⚠ • 着陸に適切な場所を選択してください。

モーターの起動／停止

モーターの始動

以下に示すように、コンビネーション スティック コマンド (CSC) のいずれかを実行して、モーターを始動させます。モーターの回転が始またら、両方のスティックを同時に放します。



モーターの停止

以下の 2 つの方法でモーターを停止できます。

方法 1：機体が着陸したら、モーターが停止するまで、スロットルスティックを下方向に倒し続けます。



方法 2：機体が着陸したら、以下に示すように、モーターが停止するまで、いずれかの CSC を実行します。



飛行中のモーター停止

⚠ • 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

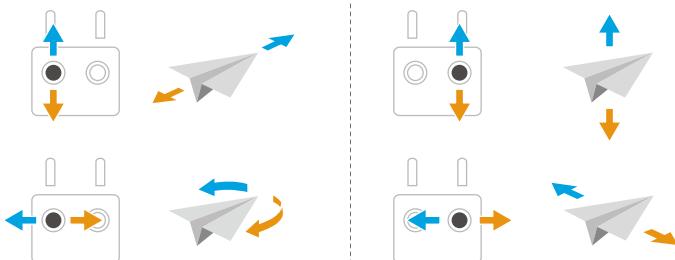
DJI Fly アプリのプロペラ緊急停止のデフォルト設定は、緊急時のみです。つまり、機体が衝突する、モーターが失速する、機体が空中でローリングする、機体が制御不能になり急上昇／急下降するなどの緊急事態を機体が検出した場合にのみ、モーターを飛行中に停止できます。飛行中にモーターを停止させるには、モーターの始動と同じ CSC を実行します。モーターを停止する場合は、CSC コマンドを実行している間、操作スティックを 2 秒間倒し続ける必要があります。プロペラ緊急停止はアプリで随时変更できます。このオプションは注意して使用してください。

機体の制御

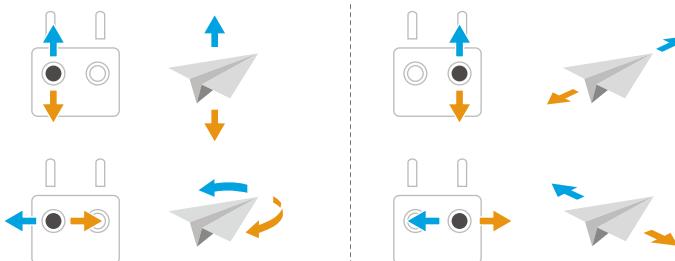
送信機の操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。以下に示すように、操作スティックは、モード 1、モード 2、モード 3 で操作できます。

送信機のデフォルトの制御モードは、モード 2 です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード 2 を使用しています。スティックが中央位置から離れるほど、機体の移動速度が速くなります。

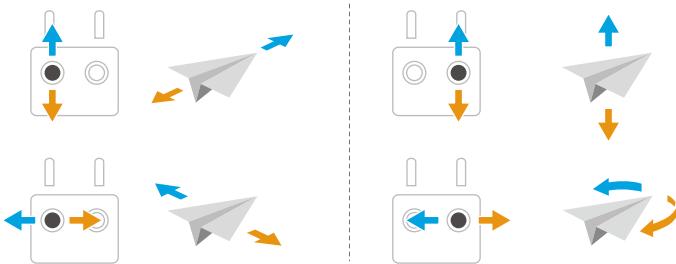
モード 1



モード 2



モード 3



離陸／着陸手順

- ⚠️ • 照度が明るすぎる場合や暗すぎる場合は、飛行監視のために送信機またはモバイルデバイスを使用しながら機体を操作しないでください。画面が見づらくならないよう、ディスプレイの明るさや画面への直射日光の量を正しく調整する責任があります。

1. フライト前チェックリストの目的は、飛行中に動画を撮影しながら安全に飛行できるようにすることにあります。飛行前は、毎回フライト前のチェックリストをすべて確認してください。
2. 見晴らしのよい平らな場所に、機体の後面を自分の方を向くようにして機体を置きます。
3. 送信機と機体の電源を入れます。
4. DJI Fly を起動して、カメラビューに入ります。
5. 機体の自己診断が完了するまで待ちます。DJI Fly に異常な警告が表示されない場合は、モーターを始動できます。
6. スロットルスティックをゆっくり上に倒して、離陸させます。
7. 着陸させるには、平らな地面の上でホバリングし、スロットルスティックを下に倒して下降させます。
8. 着陸後、モーターが停止するまでスロットルを下方向に倒し続けます。
9. 送信機より先に機体の電源を切ります。

インテリジェント フライトモード



以下のリンクをクリックするか、QR コードをスキャンしてチュートリアルビデオを視聴してください。



<https://www.dji.com/flip/video>

フォーカストラック

フォーカストラックには、スポットライト、ポイントオブインタレスト(POI)、アクティブトラックのモードがあります。

- 💡 • フォーカストラックを使用中、機体は写真や動画を自動撮影しません。写真撮影や動画録画を行うには、機体を手動で制御します。

スポットライト：飛行を手動で制御している間、カメラは常に被写体の方向を向きます。

POI：機体は設定された半径と飛行速度をもとに、被写体を中心で旋回します。

アクティブトラック：機体は動く被写体を一定の距離と高度でトラッキングします。アクティブトラックでは、人間のみトラッキングできます。

- 💡 • アクティブトラックでは、送信機を使って機体の向きを操作したり、上昇や下降、前進や後進を行うことができます。

アクティブトラックで、機体と被写体の対応フォロー範囲は次のとおりです。

被写体	人
水平距離	2~10 m (最適距離: 2~7 m)
高度	0.5~10 m (最適距離: 0.5~5 m)

注記

- ⚠️ • 機体は、人、動物、車両といった、動きのある被写体を避けることができません。フォーカストラック使用時には、飛行安全性を確保するため周囲の環境に注意を払ってください。
- 小さく細い物体（木の枝、送電線など）、透明な物体（水やガラスなど）またはモノクロの表面（白い壁など）がある場所では、フォーカストラックを使用しないでください。
 - 緊急事態が発生した場合に備え、送信機の飛行一時停止ボタンを押せるよう、または **Stop** を DJI Fly でタップして機体を手動で操作できるようにしておいてください。

- 以下のような状況でフォーカストラックを実行する場合には、特に注意してください。
 - 追尾している対象が水平ではない面上で動いている。
 - 追尾している対象が大きく動いたり、ポーズが変わったりしている。
 - 追尾している対象を長時間にわたって見ることができない。
 - 追尾している対象が雪面上で移動している。
 - 追尾している対象がその周囲環境と同様な色またはパターンである。
 - 明るさが非常に暗い（15 ルクス未満）、または非常に明るい（10,000 ルクス超）場合。
 - フォーカストラックの使用に際しては、地域のプライバシー法令に必ず従ってください。
 - 人々（子供を除く）のみを追尾することを推奨します。他の対象を追尾する場合は、注意して飛行してください。
 - 追尾対象が他の対象に近づくと、追尾対象が誤つてもう一方の対象に切り替わってしまう可能性があります。
-

フォーカストラックの使用

フォーカストラックを有効にする前に、飛行環境が開けた場所で障害物がないこと、および周囲の照度が十分であることを確認してください。

カメラビューの左側のフォーカストラックアイコン [·] をタップするか、画面上の被写体を選択してフォーカストラックを有効にしてください。有効にした後、フォーカストラックアイコン [·] をもう1回タップすると終了できます。

マスター・ショット

機体は、被写体の種類と距離に基づいて、事前に設定された飛行ルートを選択し、さまざまな定番の空撮向けに設計されたショットを自動的に撮影します。

注記

- ⚠️ • マスター・ショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路に人物、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。
- 常に機体周辺の物体に注意し、送信機を使用して機体の衝突や機体への障害物を回避してください。
- 次の状況ではマスター・ショットを使用しないでください。
- 被写体が長時間隠されているか目視外にある場合。

- 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
- 被写体が空中にある場合。
- 被写体が速く動いている場合。
- 明るさが非常に暗い（15 ルクス未満）、または非常に明るい（10,000 ルクス超）場合。
- 建物の近くや GNSS 信号が弱い場所でマスターショットを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になる可能性があります。
- マスターショットの使用に際しては地域のプライバシー法令に必ず従ってください。

マスターショットの使用

- カメラビュー右側の撮影モードアイコンをタップして、[マスターショット]  を選択します。
- 被写体をドラッグ選択し、撮影範囲を調整した後、 をタップして録画を開始すると、機体は自動的に飛行と録画を開始します。録画が終了すると、機体は元の位置に飛行して戻ります。
-  をタップするか、送信機の飛行一時停止ボタンを 1 回押します。機体はマスター mode をすぐ終了し、ホバリングします

クイックショット

クイックショットには、複数の撮影モードがあります。機体では、選択した撮影モードに従つて自動で録画し、短い動画を生成します。

注記

-  • ブーメランを使用する際は、十分な空間を確保してください。機体の周囲は半径 30 m 以上、上空は 10 m 以上のスペースが必要です。
- アステロイドを使用する際は、十分な空間を確保してください。機体の後方を最低 40 m、上方を最低 50 m 確保してください。
- クイックショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路に人物、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。
- 常に機体周辺の物体に注意し、送信機を使用して機体の衝突や機体への障害物を回避してください。
- 次の状況ではクイックショットを使用しないでください。
- 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。

- ・ 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
- ・ 被写体が空中にある場合。
- ・ 被写体が速く動いている場合。
- ・ 明るさが非常に暗い（15 ルクス未満）、または非常に明るい（10,000 ルクス超）場合。
- ・ 建物の近くや GNSS 信号が弱い場所でクリックショットを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になります。
- ・ クリックショットを使用する場合は、必ず現地のプライバシー法令に従ってください。

クリックショットの使用

1. カメラビュー右側の撮影モードアイコンをタップして、[クリックショット]  を選択します。
2. サブモードを選択し、+アイコンをタップするか、または画面上をドラッグして被写体を選択します。 をタップすると撮影を始めることができます。航空機は、選択したオプションに従って事前に設定された飛行動作を実行しながら映像を記録し、その後、動画を生成します。録画が終了すると、機体は元の位置に飛行して戻ります。
3.  をタップするか、送信機の飛行一時停止ボタンを 1 回押します。機体はすぐにクリックショットを終了しホバリングします

ハイパーラプス

ハイパーラプスは、間隔を置いて一定枚数の写真を撮影し、これらの写真を数秒間のビデオにまとめます。道を走る車の流れ、雲の流れ、日の出と日の入りなど、動く要素を含むシーンの撮影に特に適しています

ハイパーラプスの使用

1. カメラビュー右側の撮影モードアイコンをタップして、[ハイパーラプス]  を選択します。
2. [ハイパーラプスマード]を選択します。関連するパラメーターを設定した後、シャッター／録画ボタン  をタップして、処理を開始します。
3.  をタップするか、送信機の停止ボタンを押すと、機体はハイパーラプスを終了してホバリングします。

クルーズ制御

クルーズ制御は、機体が自動的に一定の速度で飛行することを可能にし、長距離飛行を楽にし、手動操作中に発生しがちな映像のブレを回避できます。操作スティック入力を増やすことによる旋回上昇など、より高度なカメラ動作に対応します

- ⚠** • クルーズ制御中の障害物検知は、現在のフライトモードの障害物検知の条件に従います。慎重に飛行してください。

クルーズ制御の使用

1. 送信機のカスタムボタンの1つをクルーズ制御に設定します。
2. 操作スティックを押しながらクルーズ制御ボタンを押すと、機体は現在の速度で自動飛行を続けます。
3. 送信機の飛行一時停止ボタンを1回押すか、をタップしてクルーズ制御を解除してください。

アプリでの音声録音

アプリのカメラビューで、[...] > [カメラ] をタップして、アプリ録画を有効にし、ノイズ低減エフェクトを選択します。機体が映像を録画している間、対応する音声録音デバイスによって音声が録音されます。ライブビューにマイクのアイコンが表示されます。

対応する音声録音デバイスには、スマートフォンの内蔵マイク、DJI Mic 2、Bluetooth イヤホンなどがあります。対応 Bluetooth 機器一覧は、DJI Flip 公式ウェブページのダウンロードページをご参照ください。使用する Bluetooth イヤホンによっては、音声録音の互換性に問題が生じる場合があります。録音の前に、必ずテストを行ってください。

- ⚠** • 録音中に画面をオフにしたり、他のアプリに切り替えたりしないでください。
- 💡** • 音声録音は、録音前にのみ有効または無効にできます。
- DJI Fly でアルバムビューの動画を視聴・ダウンロードする場合、音声録音機能で録音した音声は、自動的に動画ファイルに合成されます。

3.4 動画に関する提案とヒント

1. DJI Fly で目的のジンバル操作モードを選択してください。
2. ノーマルモードまたはシネモードで飛行する時に、写真や動画を撮影することをお勧めします。
3. 雨や風の強い日などの悪天候時には飛行させないでください。

4. 最も好みにあったカメラ設定を選択してください。
5. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。
6. 操作スティックをゆっくり操作して、機体がスムーズで安定して動くようにしてください。

機體

4 機体

4.1 フライトモード

機体は以下のフライトモードに対応しており、送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードを切り替えることができます。

ノーマルモード（N モード）：ノーマルモードは、ほとんどの飛行シナリオに適しています。機体は正確にホバリングし、安定飛行し、インテリジェント フライトモードを使用することができます。

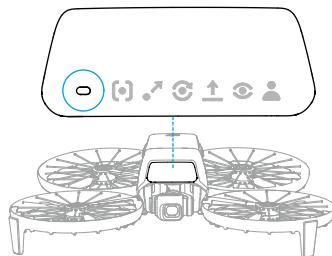
スポーツモード（S モード）：機体の最高水平飛行速度は、ノーマルモードより速くなります。スポーツモードでは障害物検知が無効になることに注意してください。

シネモード（C モード）：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。

ビジョンシステムが利用できないか無効になっている場合、かつ GNSS 信号が弱いかコンパスが干渉を受けている場合、機体は自動的に姿勢モード（ATTI モード）に切り替わります。ATTI モードでは、機体は周囲環境の影響をより受けやすくなります。風などの環境要因によって機体の水平ドリフトを引き起こすことがあります。狭いスペースを飛行している際は特に危険を招くおそれがあります。機体は定位置でホバリングしたり自動的にブレーキをかけたりすることができないため、操縦者は事故を避けるためにできるだけ早く機体を着陸させる必要があります。

-
- ✿ • このフライトモードは、手動飛行とクルーズ制御でのみ有効です。
 - ⚠ • ビジョンシステムはスポーツモードでは無効になり、機体がルート上の障害物を自動的に検知できません。周囲の環境に注意を払い、障害物を避けて機体を制御する必要があります。
 - スポーツモードでは、機体の最大速度と制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも 30 m 必要です。
 - スポーツモードまたは標準モードでの機体の上昇時と下降時は、無風状態の場合で、少なくとも 10 m の制動距離が必要です。
 - スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かしただけでも、機体は大きく移動します。飛行中は必ず、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。
 - スポーツモードで録画した動画は、映像の揺れが発生する場合があります。
-

4.2 機体ステータスインジケーター



機体ステータスインジケーターの説明

正常の状態

.....	赤色と黄色と緑色が交互に点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行
.....	緑色にゆっくり点滅	GNSS が有効
.....	緑色に 2 回点滅を繰り返す	ビジョンシステムが有効
.....	黄色にゆっくり点滅	GNSS およびビジョンシステムが無効 (ATTI モードが有効)

警告の状態

.....	赤色にゆっくり点滅	離陸不可（例：ローバッテリーなど） ^[1]
.....	赤色にすばやく点滅	重度のローバッテリー
—	赤色点灯	重大なエラー
.....	赤色と黄色に交互に点滅	コンパス キャリブレーションが必要

[1] ステータスインジケーターがゆっくりと赤色点滅している間に機体が離陸できない場合は、DJI Fly に警告プロンプトが表示されます。

4.3 ホーム帰還

このセクションの内容を注意深く読み、Return-to-Home (RTH : 帰還) モードでの機体の挙動をよく理解してください。

Return-to-Home (RTH : 帰還) 機能により、機体は最後に記録されたホームポイントまで自動的に飛行します。RTH は次の 3 つの方法のいずれかで起動します：ユーザーが積極的に RTH を起動したとき、機体のバッテリー残量が少ないととき、または送信機信号が失われたとき（フェールセーフ RTH が起動します）。機体がホームポイントを正常に記録し、測位システム

が正常に機能している場合、RTH 機能が起動すると、機体は自動的に飛行して、ホームポイントに着陸します。

- 聞** • **ホームポイント**：ホームポイントは、機体に強い GNSS 信号があるときに限り、離陸時に記録されます²⁶。ホームポイントが記録されると、DJI Fly が音声プロンプトで通知します。飛行中にホームポイントを更新する必要がある場合（位置が変更された場合など）、DJI Fly の^{…>} 安全ページでホームポイントを手動で更新できます。
-

RTH 中には、AR RTH ルートがカメラビューに表示され、帰還経路を確認して飛行の安全を確保します。カメラビューには、AR ホームポイントも表示されます。機体がホームポイント上空に到達すると、ジンバルカメラが自動的に下に向けます。機体が地表に近づくと、AR 機体シャドーがカメラビューに表示され、機体を正確に制御して希望する位置に着陸させることができます。

デフォルトで、AR ホームポイント、AR RTH ルート、機体の AR シャドーがカメラビューに表示されます。表示は、^{…> 安全 > AR 設定}から変更できます。

- △** • AR RTH ルートはあくまで参考用です。飛行シナリオによっては実際の飛行ルートからずれる場合があります。RTH 中は、常に画面のライブビューに注意を払ってください。慎重に飛行してください。
- RTH 中、デフォルトで、カメラが RTH ルートに向くように、機体はジンバルのチルトを自動調整します。ジンバルダイヤルを使用してカメラの向きを調整するか、または送信機のカスタマイズ可能なボタンを押してカメラの中心を再調整すると、機体によるジンバルの傾きの自動調整が停止され、AR RTH ルートが表示されなくなる可能性があります。
-

注記

- △** • 測位システムに異常がある場合、機体はホームポイントに正常に戻れないことがあります。フェールセーフ RTH 中、測位システムに異常がある場合、機体は ATTI モードに入り、自動的に着陸することができます。
- GNSS 信号がない場合は、水面やガラス面の建物の上を飛行したり、地上 30 m 以上の高度で飛行したりしないでください。測位システムが異常な動作をしている場合、機体は ATTI モードに入れます。
 - 飛行の前には、その都度、適切な RTH 高度を設定してください。DJI Fly を起動して、RTH 高度を設定します。
 - 環境条件が検知システムに適していない場合、機体は RTH 中に障害物を検知しません。
 - GEO 区域は RTH に影響を及ぼす恐れがあります。GEO 区域付近での飛行は避けてください。

- ・ 風速が大きすぎる場合、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。
- ・ RTH 中は、小さく細い物体（木の枝や送電線など）や、透明な物体（水やガラスなど）に特に注意してください。緊急時は RTH を終了し、機体を手動で操作してください。
- ・ RTH 時、最大高度が現在の高度よりも低い高度に調整されていた場合、機体は最初に最大高度まで下降して、帰還します。
- ・ RTH 高度は RTH 時には変更できません。
- ・ 現在の高度と RTH 高度間に大きな差異がある場合は、異なる高度での風速により消費したバッテリー使用量を正確に計算することはできません。バッテリー残量と DJI Fly の警告プロンプトに細心の注意を払ってください。
- ・ RTH 中、送信機の信号が正常な場合、ピッチステイックは飛行速度のコントロールにのみ使用できます。方向と高度は制御できず、機体を左右に飛行させるようにコントロールすることもできません。ピッチステイックを倒し続けて加速すると、バッテリーの消費が早くなります。ピッチステイックを押して、下に最後まで倒すと、機体にブレーキがかかり停止し、その場でホバリングし、RTH を終了します。ピッチステイックを放すと、機体を再びコントロールすることができます。
- ・ 機体を屋外で使用する際のホームポイントが高度制限区域内にあるにもかかわらず、機体が高度制限区域内ない場合、機体が高度制限区域に達すると、この高度は、設定されている RTH 高度よりも低い高度制限まで降下する可能性があります。慎重に飛行してください。
- ・ 複雑な環境で RTH を完了できない場合、検知システムが適切に動作している場合でも、機体は RTH を終了します。
- ・ RTH は、自動着陸中に起動することはできません。

開始方法

ユーザーが能動的に RTH を起動

飛行中に RTH を開始するには、送信機の RTH ボタンを長押しするか、またはカメラビューで左側に表示される  ボタンをタップして、[RTH] アイコンを長押しします。

機体のローバッテリー状態

飛行中、バッテリー残量が低下し、ホームポイントまでしか飛行できなくなると警告プロンプトが DJI Fly に表示されます。RTH を確認するためにタップするか、カウントダウンが終了する前に行動を起こさない場合、機体は自動的にローバッテリー RTH を開始します。

ローバッテリーの RTH プロンプトをキャンセルし、機体の飛行を続けた場合、現在のバッテリー残量では、現在の機体の高度から下降させることしかできない場合、自動で着陸します。

自動着陸はキャンセルできませんが、ピッチステイックとロールステイックを使用して機体を水平に移動できます。または、スロットルステイックを使用して下降速度を制御できます。できるだけ早く着陸に適した場所に機体を飛行してください。

- ⚠️ • インテリジェントフライトバッテリーの残量が低すぎて、帰還に必要な電力がない場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。バッテリーが完全に消耗すると、機体は墜落します。
- 自動着陸中は、スロットルステイックを上に倒し続けないでください。倒し続けた場合、機体はバッテリーが完全に消耗した後に墜落します。

送信機信号の消失

送信機信号が失われた場合、信号ロストアクションが RTH に設定されていれば、機体は自動的にフェールセーフ RTH を開始します。

機体は元の飛行ルートに沿って 50 m 後方に飛行し、次に RTH 手順を実行します。元の飛行ルートに沿って後方に飛行しているときに信号が回復した場合、機体は直接 RTH 手順を実行します。

RTH 手順

RTH が起動すると、機体はブレーキをかけて、その場でホバリングします。

- RTH 距離が 50 m より遠い場合、RTH 高度まで上昇し、ホームポイントに戻ります。現在の高度が RTH 高度より高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。^[1]
- RTH 距離が 5 m を超え 50 m 未満の場合、機体は向きを調整し、現在の高度でホームポイントに真っ直ぐ飛行します。^[2]
- RTH 距離が 5 m 未満の場合、機体は速やかに着陸します。

[1] 前方 3D 赤外線検知システムが前方に障害物を検知した場合、機体は障害物を避けるために上昇します。前方の経路がクリアになつたら上昇を停止し、RTH を続けます。障害物の高さが高度制限を超える場合、機体はブレーキをかけてホバリングし、ユーザーが制御する必要があります。

[2] 前方 3D 赤外線検知システムが前方に障害物を検知した場合、機体はブレーキをかけてホバリングし、制御する必要があります。

4.4 自動着陸

状況によっては、着陸保護機能がサポートされ、DJI Flip が自動的に着陸することができます。

- ⚠️ • バッテリー残量が著しく低下したことにより DJI Flip が着陸するのを、継続的に妨げないでください。妨げると、バッテリーが損傷したり、DJI Flip が墜落したりします。

発動方法

次のシーンでは、DJI Flip は自動的に着陸します：

- RTH がトリガーされた後、DJI Flip がホームポイント上空に到達したとき。
- DJI Flip のバッテリー残量が著しく低下したとき。
- 手のひら制御およびモバイルアプリ制御では、測位に失敗するか、または DJI Flip が衝突を検出したが、墜落しないとき。

着陸保護

着陸保護機能は自動着陸中に有効になります。

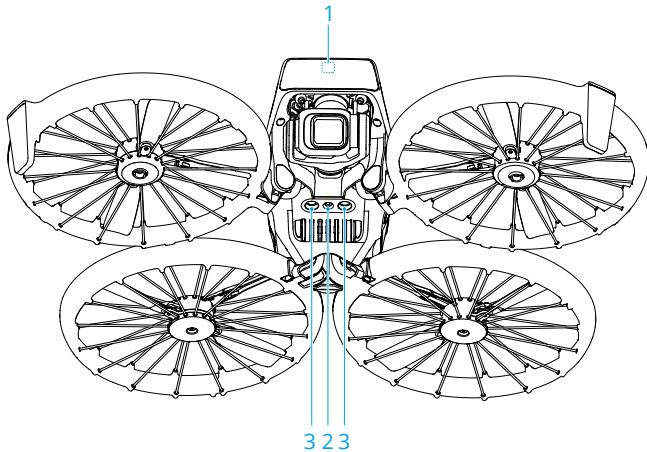
DJI Flip の具体的なアクションは、次のとおりです。

- 地面が着陸に適していると判断された場合には、DJI Flip は直接着陸します。
- 地面が着陸に適していないと判断された場合には、DJI Flip はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。手のひら着陸を行うことも、手動で DJI Flip を着陸させることもできます。
- 地上環境が着陸に適しているかどうかを DJI Flip が判断できなかった場合、DJI Flip が地上から一定の距離まで降下すると、DJI Fly は着陸プロンプトを表示します。着陸プロンプトを確認すると、DJI Flip が着陸します。手のひら着陸を行うことも、手動で DJI Flip を着陸させることもできます。

-
-  • 着陸保護は、着陸環境を判断する補助に過ぎません。安全確保のため、着陸時には周辺環境に十分に注意してください。
- 次の状況では、着陸保護を使用できず、DJI Flip が不適切な地面に直接着陸する可能性があります：
- 単色、反射、低照度の表面、明確な構造がない広い面積の表面、または滑らかなセラミックタイル、光量が不十分な車庫の床面、風になびく草のような動的地表面の上を飛行している場合。
 - 大きな岩などの明確な構造がない障害物がある地表面、盛り上がったタイルなどの反射面や単色の（全体が一色の）表面の上を飛行している場合。
 - 送電線や木の枝などの小さい障害物や細かい障害物の上を飛行している場合。
 - 刈り込まれた平らな低木、平らな樹木の上、半球状の地面など、平らな地面に似た表面の上を飛行している場合。
- 次のような場合、誤って着陸保護機能が作動し、DJI Flip が着陸できないことがあります。手のひら着陸を行うことも、手動で DJI Flip を着陸させることができます。
- 濡れた地面や水たまりのある場所など、ビジョンシステムが水と混同する可能性のある表面の上を飛行している場合。

- 平らな表面の上を飛んでいるが、近くにはつくりとした構造の表面（斜面や階段）がある場合。

4.5 検知システム



1. 前方 3D 赤外線検知システム*

3. 下方赤外線検知システム

2. 下方ビジョンシステム

* 3D 赤外線検知システムは、クラス 1 レーザー製品に対する人間の視覚の安全基準を満たしています。

前方 3D 赤外線検知システムは、前方にある障害物を検知できます。機体がノーマルモードあるいはシネモードで、DJI Fly で障害物回避アクションがブレーキに設定されている場合、自動的に有効になります。下方ビジョンシステムの測位機能は、GNSS 信号が利用できない、もしくは弱い場合に適用されます。

障害物検知は、機体を手動で制御して前進飛行する場合、または自動 RTH 中にのみ使用できます。インテリジェント ライトモードまたはスマートスナップの使用中は、障害物検知は使用できません。

注記

- ⚠** • 飛行環境に注意してください。検知システムは、特定のシナリオでのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、常に周囲の環境と DJI Fly での警告に注意を払い、責任を持って機体の操作にあたってください。

- GNSS が利用できない場合、下方ビジョンシステムが機体のポジショニングを補助し、機体の高度が 0.5 m から 10 m の高さにあるときに最適に機能します。機体の高度が 10 m を超える場合は、ビジョンポジショニング性能に影響が出る可能性があるため、特に注意が必要です。
- 機体が水面付近を飛行している場合、下方ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、機体の下に水面がある場合、能動的に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに過度に依存しないようにしてください。
- ビジョンシステムは、タワークレーン、高圧送電鉄塔、高圧送電線、斜張橋、吊り橋など、フレームとケーブルを使った大型構造物を正確に識別できません。
- ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の周辺、または照度が弱すぎたり強すぎたりする環境では、適切に機能しません。ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。
 - モノクロ（黒一色、白色、赤色、緑色など）の地表面付近を飛行している場合。
 - 反射率が高い地表面付近を飛行している場合。
 - 水面または透明な地表面付近を飛行している場合。
 - 動く面または物体の周辺を飛行している場合。
 - 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
 - 非常に暗い（15 ルクス未満）または非常に明るい（10,000 ルクス超）地表面付近を飛行している場合。
 - 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）付近を飛行している場合。
 - はっきりした模様や構造のない地表面付近を飛行する場合。
 - 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面付近を飛行している場合。
 - 表面積の小さい障害物付近を飛行している場合（木枝や電線など）。
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサー表面を傷つけたり、改造したりしないでください。ほこりや湿気のある環境で機体を使用しないでください。
- 長期間保管後、ビジョンシステムカメラはキャリブレーションが必要な場合があります。DJI Fly にプロンプトが表示され、自動的にキャリブレーションを実行します。
- 雨や霧、または視界が 100 m 未満の場合は飛行しないでください。
- 検知システムを遮断しないでください。
- 離陸前に、以下の項目を必ず確認してください。
 - 検知システムのガラスにステッカーやその他の障害物がないことを確認してください。

- 検知システムのガラスに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかい布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
- 検知システムのレンズに傷などがある場合は、DJI サポートにお問い合わせください。
- 機体が前方に加速すると、前方に傾きます。機体が手動で地面近くを飛行するように制御されている場合、前方 3D 赤外線検知システムが前方の地面近くに障害物を検知したために、機体が自動的に減速してホバリングすることがあります。ホバリング時は機体が自動的に水平姿勢に戻るため、地面に近い障害物は検知されなくなり、機体はコントロールスティックによる前進入力に反応を続けることができるようになります。上記の現象は、機体の正常動作です。
- 環境内にある赤外線光源から干渉を受けている場合、機体の赤外線検知システムの性能が影響を受ける可能性があります。

4.6 プロペラ

プロペラには 2 種類あり、それぞれ別の方向に回転するように設計されています。記載されているマークは、どのモーターにどのプロペラを取り付けるべきかを示しています。指示に従ってプロペラとモーターが合致していることを必ず確認してください。

プロペラ	マークあり	マークなし
イラスト		
取り付け位置	マークありのアームのモーターに取り付ける	マークなしのアームのモーターに取り付ける

注記

- ⚠️
- プロペラの取り付けには、機体パッケージに同梱されたドライバーのみを使用してください。他のドライバーを使用すると、ねじが損傷する恐れがあります。
 - ねじを締めるときは、ねじをまっすぐ垂直にして締めてください。ねじは、取り付け面に対して斜めに取り付けないでください。取り付けが完了したら、ねじが平らになっているかどうかを確認し、プロペラを回転させて異常な抵抗がないかどうかを確認します。
 - プロペラブレードは先端が鋭くなっています。けがやプロペラの変形を避けるために、注意して扱ってください。
 - 飛行前に、毎回プロペラとモーターが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。飛行時間 30 時間（約 60 回分のフライト）ごとに、プロペラのねじの締め付けが十分であるかどうかを確認してください。

- ドライバーは、プロペラを取り付けるためのものです。ドライバーを使用して機体を分解しないでください。
- プロペラが破損している場合は、対応するモーターのプロペラ（2つ）とねじ（2つ）を取り外して廃棄します。同じパッケージに同梱されているプロペラを使用してください。他のパッケージのプロペラと混ぜて使用しないでください。
- DJI 公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
- プロペラは消耗品です。必要に応じて追加のプロペラを購入してください。
- 各飛行前に、すべてのプロペラが良好な状態であることを確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。プロペラに異物が付着している場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。
- 怪我をしないよう、回転中のプロペラやモーターから離れてください。
- プロペラの破損を防ぐため、輸送時や保管時は、機体を適切に配置してください。プロペラをひねったり折り曲げたりしないでください。プロペラが損傷している場合、飛行性能が影響を受ける可能性があります。
- モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
- モーターを改造しないでください。
- 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体の一部が接触したりしないようにしてください。
- モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
- 電源を入れた時、ESC の動作音に異常がないことを確認してください。

プロペラの交換



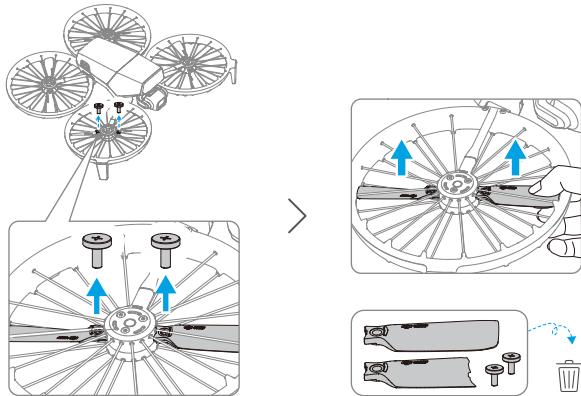
以下のリンクをクリックするか、QR コードをスキャンしてチュートリアルビデオを視聴してください。



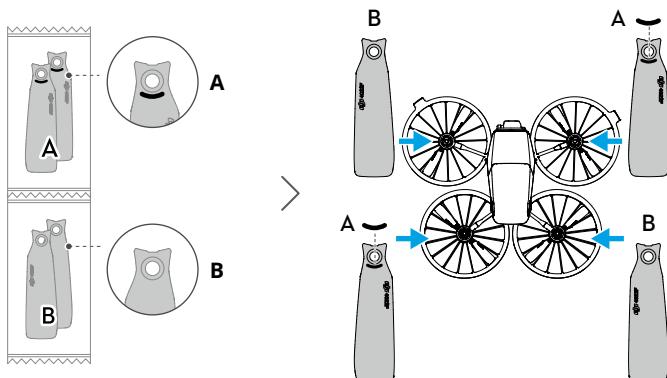
<https://www.dji.com/flip/video>

DJI Flip の電源がオフになっていることを確認してください。

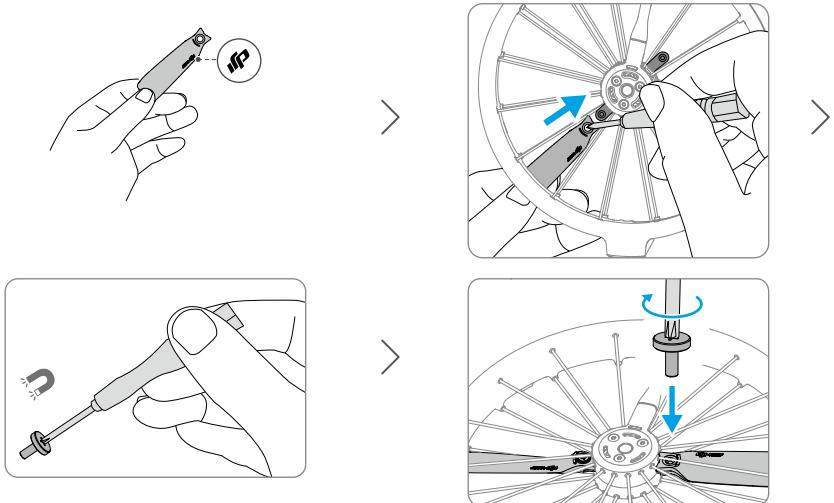
1. 機体パッケージに含まれるドライバーを使用して、古いプロペラとネジを取り外します。



2. プロペラのパッケージには A と B のラベルが貼られ、それぞれの取り付け位置が示されています。プロペラ A には盛り上がったマークがありますが、プロペラ B にはマークがありません。対応するプロペラとモーターについては、図を参照してください。



3. 取り付ける際は、プロペラの端を片手で持ち、DJI のロゴが上を向いていることを確認します。プロペラガードをゆっくりと持ち上げ、プロペラを下から隙間に挿入します。もう一方の手で、ドライバーを使用して、プロペラのねじ穴をモーター上の突起に合わせます。ねじ穴の位置を合わせたら、ドライバーでプロペラを数回押し下げて、しっかりと固定されていることを確認します。ドライバーの上にねじを置き、ねじを締めます。取り付け後、プロペラをゆっくりと上に持ち上げ、しっかりと固定されていることを確認してください！



4.7 インテリジェント フライトバッテリー

注記

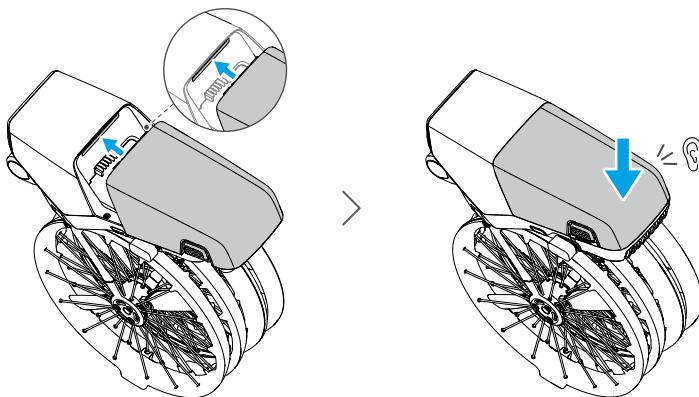
- ⚠️ • バッテリーを使用する前に、このマニュアル、『安全ガイドライン』、バッテリーステッカーに記載されている指示を読み、厳密に従ってください。ユーザーはすべての操作と使用に対する責任を負うものとします。

- 飛行直後にはインテリジェント フライトバッテリーが過熱していることがあります。すぐには充電しないでください。バッテリーを許容される充電環境温度まで放熱してから、再充電してください。
- 損傷を防ぐために、バッテリーの温度が 5°~40°C の場合にのみ充電されます。推奨する充電温度範囲は 22°C~28°C です。理想的な温度範囲で充電すると、バッテリーの寿命を延ばすことができます。充電中にバッテリーセルの温度が 55°C を超えると、充電は自動的に停止します。
- 低温注意：
 - バッテリーは極低温環境 (-10°C より低い) では使用できません。
 - 低温環境 (-10°~5°C) で飛行すると、バッテリー容量が著しく減少します。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせます。

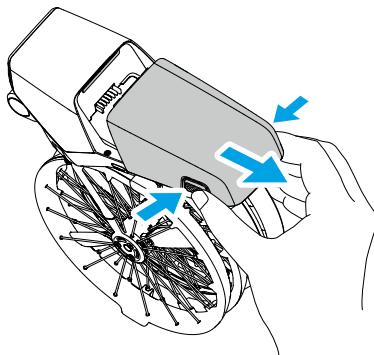
- 低温環境で飛行する場合は、離陸前にバッテリーを最低 10°C まで暖めることをお勧めします。バッテリーを温める理想的な温度は 20°C 以上です。
 - 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風圧抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行してください。
 - 低温環境で標高の高いところを飛行する場合は、特に注意してください。
4. フル充電されたバッテリーは、一定時間使用しないと自動的に放電します。放電の過程でバッテリーから熱が放出されますが、これは正常です。
5. バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 カ月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。バッテリーを長期間使用しないと、バッテリーの性能に影響が出たり、バッテリーが永久的な損傷を引き起こす場合があります。バッテリーが 3 ヶ月以上充放電されていない場合、バッテリーは保証の対象外となります。
6. 安全上の理由から、輸送中はバッテリーの残量を低い状態にしておいてください。輸送前に、バッテリーを 30%以下に放電しておくことをお勧めします。

バッテリーの取り付け／取り外し

取り付け



取り外し

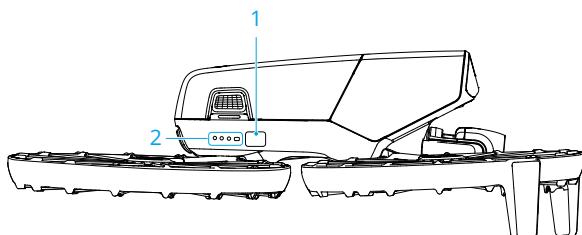


- ⚠️** • 機体の電源が入っているときは、バッテリーを挿入したり取り外したりしないでください。
- カチッという音でバッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認します。バッテリーがしっかりと取り付けられていない場合に機体を離陸させないでください。バッテリーと機体の接触が悪くなり、危険を招く恐れがあります。

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。



1. 電源ボタン

2. バッテリー残量 LED

バッテリー残量 LEDは、充電中および放電中に、バッテリーの残量を表示します。LEDのステータスは以下のように定義されます：

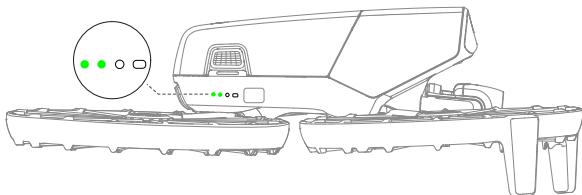
● LEDが点灯

● LED点滅

◎ LED が消灯

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ● ○	88%~100%
● ● ● ⚡	76%~87%
● ● ○ ○	63%~75%
● ● ⚡ ○	51%~62%
● ● ○ ○	38%~50%
● ⚡ ○ ○	26%~37%
● ○ ○ ○	13%~25%
⚡ ○ ○ ○	0%~12%

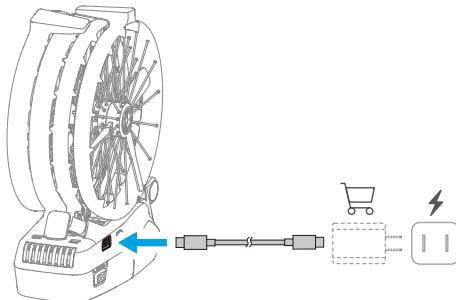
下図のように、2つのLEDが同時に点滅している場合は、バッテリーが故障していることを示しています。機体からバッテリーを取り外し、バッテリーを再度挿入して、しっかりと取り付けられていることを確認してください。



バッテリーの充電

各使用の前には、必ずバッテリーを完全に充電してください。DJI が提供する充電器または USB PD 急速充電プロトコルをサポートする他の充電器を使用することを推奨します。

充電器の使用



- ⚠** • 機体の電源が入っているとバッテリーを充電できません。

下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています。

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ○ ○	0~50%
● ● ● ○	51~75%
● ● ● ●	76~99%
● ● ● ●	100%

- 💡** • バッテリー残量 LED の点滅間隔は、使用する USB 充電器によって異なります。充電速度が高速な場合、バッテリー残量 LED が素早く点滅します。
- 4 つの LED が同時に点滅する場合、バッテリーが損傷していることを示します。

充電ハブの使用

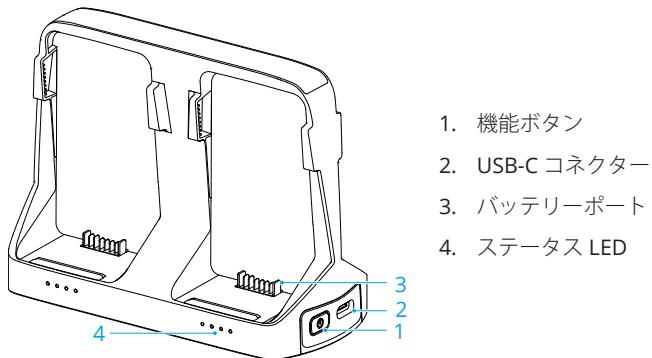


以下のリンクをクリックするか、QR コードをスキャンしてチュートリアルビデオを視聴してください。



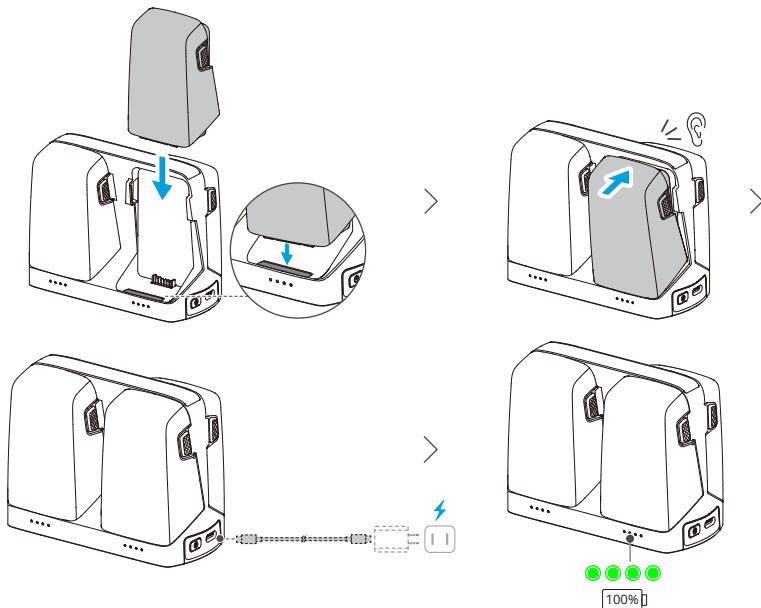
<https://www.dji.com/flip/video>

- ⚠ • 環境温度は充電速度に影響を及ぼします。25°Cの換気の良い環境では、充電速度がより速くなります。
- 充電ハブは、特定のモデルのインテリジェント ライトバッテリーの特定のモデルにのみ互換性があります。それ以外のバッテリーモデルと一緒に充電ハブを使用しないでください。
- 本充電ハブを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
- バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。
- 金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。



充電方法

取り付け

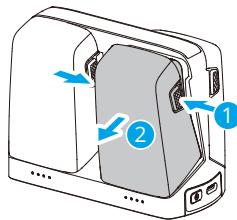


定格出力が異なる充電器を使用して複数のバッテリーを充電する場合、充電順序が異なります。詳細については下の表を参照してください。

充電電力 <65 W	バッテリー残量が多いバッテリーから少ないバッテリーへと順番に充電します。
充電電力 ≥65 W	2つのバッテリーを同時に充電します： まず、バッテリー残量が2番目に多いバッテリーを、充電残量が最も多いバッテリーと同じ残量になるまで充電し、次に両方のバッテリーを一緒にフル充電します。

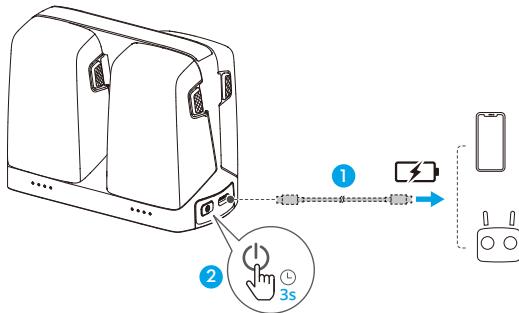
- 💡 • 並列充電には、DJI 65W ポータブル充電器、または少なくとも 65W の出力、15V で 4.3A の電流、PD プロトコルのサポートを備えた充電器と、少なくとも 5A の定格で PD プロトコルをサポートする充電ケーブルが必要です。そうでない場合、バッテリーは個別に充電されます。

取り外し



充電ハブをモバイルバッテリーとして使用

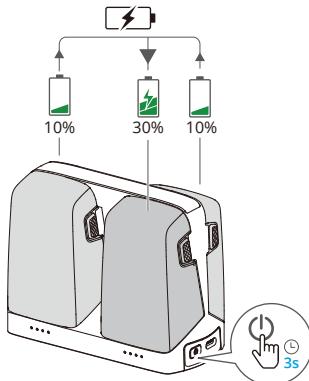
- 1つ以上のバッテリーを充電ハブに挿入します。スマートフォンや送信機などの外部デバイスを、充電ハブのUSB-Cポートに接続し、機能ボタンを3秒間長押しします。
- バッテリーは、バッテリー残量に応じて、残量の最も少ないバッテリーから最も多いバッテリーの順に放電され、外部デバイスに電力を供給します。外部デバイスの充電を停止するには、外部デバイスを充電ハブから取り外します。



⚠️ • バッテリー残量が7%未満の場合、バッテリーは外部デバイスを充電できません。

集電

- インテリジェント ライトバッテリーを充電ハブに挿入し、機能ボタンを長押しすると、電力レベルの低いバッテリーから電力レベルの高いバッテリーに電力が転送されます。電力レベルの低いバッテリーのステータスLEDは、現在の電力レベルを表示し、電力レベルの高いバッテリーのステータスLEDは、順番に点滅します。
- 集電を停止するには、もう一度機能ボタンを長押しします。集電を停止した後、機能ボタンを押してバッテリー残量を確認してください。



- ⚠️** • 以下の状況では、集電は自動停止します。
- 充電される側のバッテリーが完全に充電されているか、出力する側のバッテリーの電力が 10%未満の場合。
 - 集電中に、充電器や外部デバイスを充電ハブに接続したり、バッテリーを充電ハブに挿入、または、充電ハブから引き抜かれたりした場合。
 - バッテリーの温度異常により、集電が 15 分以上中断した場合。
 - 集電後は、放電を避けるため、できるだけ早く、バッテリー残量の一番少ないバッテリーを充電してください。

ステータス LED の説明

充電ハブの各バッテリーポートには、対応するステータス LED アレイがあり、充電ステータス、バッテリー残量、異常ステータスを表示できます。バッテリー残量とバッテリー異常の LED ステータスは機体と同じです。

充電ステータス

点滅パターン	説明
ステータス LED（一列）が連続して素早く点滅	該当のバッテリーポートのバッテリーは、USB PD 充電器を使用して充電されています。
ステータス LED（一列）が連続してゆっくりと点滅	該当のバッテリーポートのバッテリーは、通常の充電器を使用して充電されています。
ステータス LED（一列）が点灯	該当のバッテリーポートのバッテリーの充電が完了しました。
すべてのステータス LED が順番に点滅	バッテリーが一つも挿入されていません。

バッテリー保護メカニズム

バッテリー残量 LED は、異常な充電状態に関するバッテリー保護通知を表示します。

LED	点滅パターン	状態
①    	LED2 が毎秒 2 回点滅	過電流検知
②    	LED2 が毎秒 3 回点滅	短絡検知
③    	LED3 が毎秒 2 回点滅	過充電検知
④    	LED3 が毎秒 3 回点滅	充電器の過電圧検知
⑤    	LED4 が毎秒 2 回点滅	充電温度が低すぎる
⑥    	LED4 が毎秒 3 回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムが有効になった場合、充電を再開するには充電器のプラグを抜き、その後、再び差し込みます。充電温度範囲が異常な場合は、正常に戻るまでお待ちください。バッテリーは自動的に充電を再開します。その際に充電器のプラグを抜き差しする必要はありません。

4.8 ジンバルとカメラ

ジンバルに関する注記

- ⚠️
 - ・ 離陸する前に、ジンバル上にステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。機体の電源を入れた状態で、ジンバルを押したり叩いたりしないでください。ジンバルを保護するために、機体を平らで開けた場所から離陸させてください。
 - ・ 機体の電源を入れる前に、ジンバル プロテクターを取り外してください。機体を使用しないときは、ジンバル プロテクターを取り付けてください。
 - ・ 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷があると、ジンバル性能に異常をきたす可能性があります。
 - ・ ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
 - ・ 機体が平らではない地面や草地に置かれている、または衝突のような外からの過剰な力をジンバルが受けている場合、ジンバルが他の物体によって妨げられると、ジンバルモーターが保護モードになる可能性があります。ジンバルが正常に戻るまでを待つか、デバイスを再起動してください。
 - ・ 機体の電源をオンにした後、ジンバルに外力をかけないでください。
 - ・ ジンバルに公式アクセサリー以外の余計なペイロードを載せないでください。ジンバル動作の不具合や、さらにはモーターの損傷を引き起こすおそれがあります。

- 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じる可能性があります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。
- 強風の場合、録画中にジンバルが振動することがあります。
- 飛行中にジンバルチルトの角度が大きくなり、加減速によって機体が前方に傾くと、ジンバルはリミット保護モードに入り、自動的に角度を下方調整します。
- 電源を入れた後、機体を長時間平らな場所に置かなかったり、大きく揺らしたりすると、ジンバルが停止して、保護モードに入る可能性があります。この場合、機体を平らにして回復を待ちます。
- ジンバルが下向きになった状態で飛行中に強風に遭遇すると、ライブビューの端に機体が映り込むことがあります。

ジンバル操作モード

2種類のジンバル操作モードがあります。 **•••> 制御**で各操作モードを切り替えます。

フォローモード：ジンバルの角度は水平面に対して安定性を維持します。このモードは静止画の撮影に適しています。

FPV モード：機体が前方に飛行している場合、ジンバルは機体のローリングに同調してロールし、FOV 視点の飛行体験を提供します。

ジンバル角度

送信機のジンバルダイヤルを使用して、ジンバルのチルトを操作します。また、DJI Fly のカメラレビューからも操作できます。ジンバル調整バーが表示されるまで画面を長押ししてください。バーをドラッグしてジンバル角度を制御します。

カメラに関する注記

- ⚠
- センサーの破損を避けるため、レーザーシャーのようなレーザー光線のある環境にカメラのレンズをさらしたり、晴れた日の太陽のような強い光源に長時間カメラを向け続けたりしないでください。
 - 使用中と保管中、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
 - レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷や画質の低下を防いでください。
 - カメラの通気口を塞がないでください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。
 - 下記の状況では、カメラのフォーカスが正しく動作しない場合があります。
 - 遠くにある暗い物体の写真や動画を撮影する場合。

- 同じ模様や質感が繰り返されている物体、または明確な模様や質感がない物体の写真や動画を撮影する場合。
- 輝いている物体、反射率が高い物体の写真や動画を撮影する場合。(例: 街灯やガラスなど)
- 点滅する物体の写真や動画を撮影する場合。
- 高速で移動する物体の写真や動画を撮影する場合。
- 機体／ジンバルが速く動いている場合。
- 焦点距離の異なる物体の写真や動画を撮影する場合。
- フレームの中心にない付近の物体の写真や動画を撮影する場合。

4.9 写真と動画の保存とエクスポート

収納

機体は、microSD カードを使用して写真や動画を保存することができます。推奨 microSD カードに関しては、仕様を参照してください。

microSD カードが利用できない場合は、機体の内部ストレージに写真や動画を保存することもできます。

エクスポート

- 映像をモバイル端末にエクスポートするには、クリック転送を使用してください。
- データケーブルを使用して機体をパソコンに接続し、機体の内部ストレージまたは機体に挿入された microSD カードの映像をエクスポートします。エクスポート処理中に機体の電源を入れる必要はありません。
- 機体から microSD カードを取り外し、カードリーダーに挿入して、カードリーダーから microSD カード内の映像をエクスポートします。

- ⚠️
- 使用中は、SD カードスロットと microSD カードが清潔で異物がないことを確認してください。
 - 写真や動画の撮影時は、microSD カードを機体から取り出さないでください。
microSD カードが損傷する可能性があります。
 - 使用する前にカメラ設定を確認し、正しく設定されていることを確認してください。
 - 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作するか確認してください。

-
- 機体の電源を正しく切ってください。正しく電源を切らなかった場合、カメラのパラメーターが正常に保存されず、記録された写真や動画に影響がある場合があります。機械が読み取れない方式で記録された画像や動画による損失に対し、DJI は一切責任を負いません。
-

4.10 クイック転送

DJI Flip は Wi-Fi 経由でスマートフォンに直接接続できるため、DJI Flip からスマートフォンに写真や動画をダウンロードできます。

モバイルアプリ制御では、スマートフォンを DJI Flip に接続した後、[アルバム] ビューに移動して、クイック転送モードに入ります。

DJI Flip がスマートフォンに接続されていない場合は、DJI Fly のホーム画面でクイック転送または Wi-Fi デバイスカードをタップして、クイック転送モードに入ることができます。スマートフォンで DJI Fly のアルバムに移動し、右上隅の  をタップして、クイック転送モードに入ることもできます。

初めてスマートフォンを DJI Flip に接続する時、DJI Flip の電源ボタンを長押しして、接続を確定してください。

-
- ⚠️
- 最大ダウンロードレートは、5.8 GHz 周波数が法律および規制によって許可されている国や地域で、5.8 GHz 周波数帯域と Wi-Fi 接続に対応したデバイスを、干渉や障害物のない環境で使用する場合にのみ実現できます。5.8 GHz が現地の規制で許可されていない場合（日本など）、ユーザーのモバイル端末は 5.8 GHz の周波数帯域に対応しないか、強い干渉を受ける可能性があります。このような状況では、クイック転送は 2.4 GHz の周波数帯域を使用して最大ダウンロードレートが 6 MB/秒に低下します。
 - クイック転送を使用する場合、接続するためにモバイル端末の設定ページで Wi-Fi パスワードを入力する必要はありません。DJI Fly を起動すると、デバイスに接続するためのプロンプトが表示されます。
 - 干渉や障害物のない環境でクイック転送を使用し、無線ルーター、Bluetooth スピーカー、ヘッドホンなどの干渉源に近づかないでください。
-

送信機

5 送信機

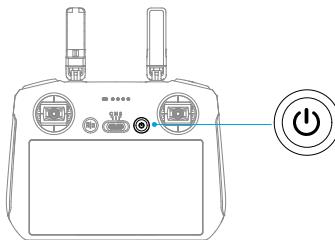
5.1 DJI RC 2

操作

電源のオン／オフ

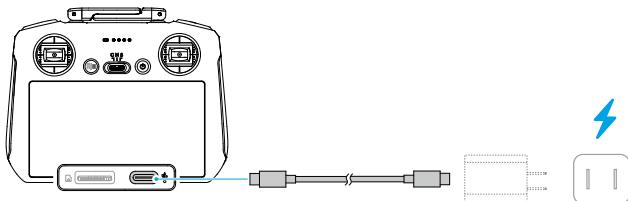
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。

1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



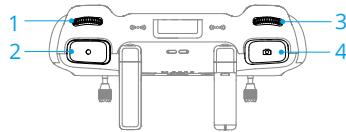
バッテリーの充電

充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。



-
- ⚠️
- 各フライトの前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
 - バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヶ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。
-

ジンバルとカメラの操作



- 1. ジンバルダイヤル**: ジンバルのチルトを制御します。
- 2. 録画ボタン**: 1回押すと、録画を開始／停止します。
- 3. カメラ制御ダイヤル**: デフォルトではズームの調整に使用します。ダイヤル機能は、焦点距離、EV、シャッター速度、ISO の調整に設定できます。
- 4. フォーカス／シャッターボタン**: 半押しでオートフォーカスが作動し、全押しで写真を撮影します。

フライトモードスイッチ

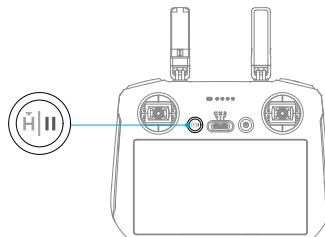
このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

C N S █ █ █	位置	フライトモード
	S	スポーツモード
	N	ノーマルモード
	C	シネモード

飛行一時停止／RTH ボタン

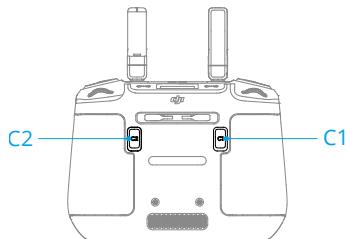
一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。

送信機からビープ音が鳴り、RTH が開始するまで、ボタンを長押しします。機体は最後に記録されたホームポイントへ戻ります。再度ボタンを押すと、RTH をキャンセルし機体を制御できるようになります。

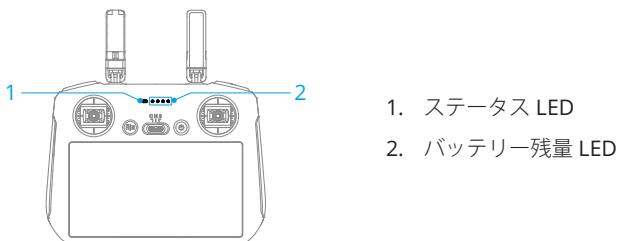


カスタムボタン

ボタン機能を表示および設定するには、DJI Fly のカメラビューに移動し、**…> 制御 > ボタンのカスタマイズ**をタップします。



送信機の LED



ステータス LED

点滅パターン	説明
赤色点灯	機体との接続が切断。
赤色点滅	機体のバッテリー残量が低下。
緑色点灯	機体と接続完了。
青色点滅	送信機は機体にリンク中。
黄色点灯	ファームウェア更新に失敗。
青色点灯	ファームウェア更新に成功。
黄色点滅	送信機のバッテリー残量が低下。
水色に点滅	操作スティックが中央位置にない。

バッテリー残量 LED

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ● ●	76~100%
● ● ● ○	51~75%
● ● ○ ○	26~50%
● ○ ○ ○	0~25%

送信機のアラート

エラーや警告がある場合、送信機がビープ音を鳴らします。タッチ画面または DJI Fly にプロンプトが表示された場合は注意してください。

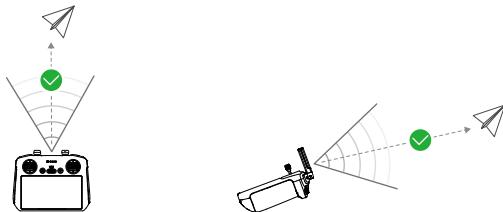
画面の上から下にスワイプして[ミュート]を選択すると、アラート音を無効になります。もしもくは、音量バーを 0 にスライドすると、一部の警告アラート音が無効になります。

送信機は RTH 中にアラート音を鳴らします、これを止めることはできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が極度に低くなると、アラート音はキャンセルできません。

送信機の電源が入っている状態で、機体と接続せずに一定時間操作しないと、アラート音が鳴ります。アラート音が止まると、自動的に電源がオフになります。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、アンテナと機体の位置関係が下の図で示すような状態になっているときに最も信頼性が高くなります。信号が弱い場合は、送信機の方向設定を調整するか、機体を送信機に近づけてください。



- ⚠️ • 送信機と同じ周波数で動作する他のワイヤレス端末を使用しないでください。送信機が信号干渉を受ける場合があります。

- 飛行中において送信信号が弱い場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。姿勢インジケーターの表示に従って、送信機の向きを調整して、機体が最適な伝送範囲内にあることを確認してください。

送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。リンクされていない場合は、以下の手順に従って、アクティベーションした後に送信機と機体をリンクさせてください。

- 機体と送信機の電源を入れます。
- DJI Fly を開始します。
- カメラビューで、**…> 制御（コントロール）> 機体の再ペアリング**をタップします。リンク中は送信機のステータス LED が青色に点滅し、送信機がビープ音を鳴らします。
- 機体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。リンクの準備ができると、機体はビープ音を鳴らし、バッテリー残量 LED が連続して点滅します。リンクが成功すると、送信機はビープ音を 2 回鳴らし、ステータス LED が緑色に点灯します。



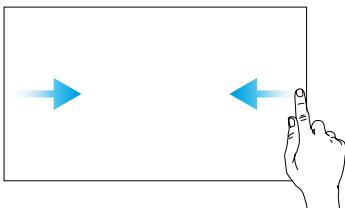
- リンクは、送信機が機体から 0.5 m 以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。

タッチ画面の操作

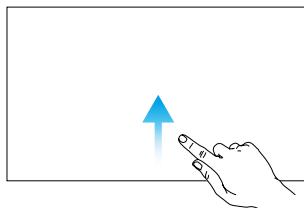


- タッチ画面は防水ではありません。慎重に操作してください。

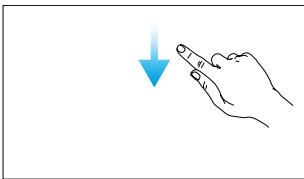
スクリーンジェスチャー



戻る：画面の左または右から中央にスワイプすると、前の画面に戻ります。

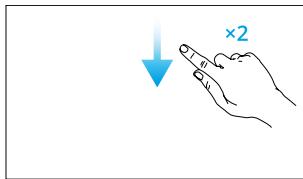


DJI Fly 戻る：画面の下部から上にスワイプすると、DJI Fly 戻ります。



ステータスバーを開く：DJI Fly で、画面の上部から下にスワイプすると、ステータスバーが開きます。

ステータスバーには、時刻、Wi-Fi 信号、送信機のバッテリー残量などが表示されます。



クイック設定を開く：DJI Fly で、画面の上部から下に 2 回スワイプすると、[クイック設定]が開きます。

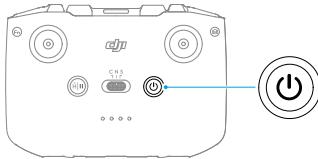
5.2 DJI RC-N3

操作

電源のオン／オフ

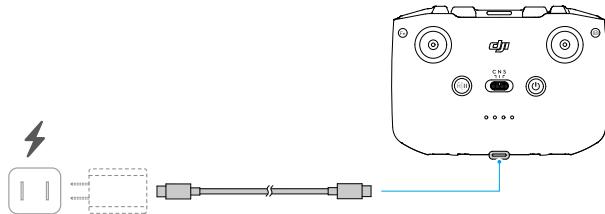
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。

1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



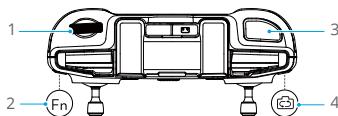
バッテリーの充電

充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。



- ⚠**
- 各フライトの前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
 - バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヶ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。

ジンバルとカメラの操作



- ジンバルダイヤル：ジンバルのチルトを制御します。
- カスタムボタン：カスタムボタンを長押ししたまま、ジンバルダイヤルを使用すると、ズームイン／ズームアウトします。

3. シャッター／録画ボタン：1回押すと、写真を撮影するか、または録画を開始／停止します。
4. 静止画／動画ボタン：1回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

フライトモードスイッチ

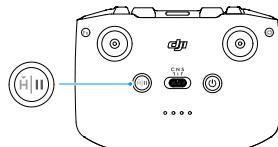
このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

C N S フライモードスイッチ	位置	フライトモード
	S	スポーツモード
	N	ノーマルモード
	C	シネモード

飛行一時停止／RTH ボタン

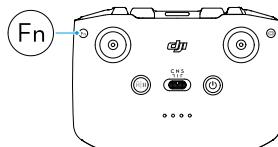
一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。

送信機からビープ音が鳴り、RTH が開始するまで、ボタンを長押しします。機体は最後に記録されたホームポイントへ戻ります。再度ボタンを押すと、RTH をキャンセルし機体を制御できるようになります。



カスタムボタン

ボタン機能を表示および設定するには、DJI Fly のカメラビューに移動し、...> 制御 > ボタンのカスタマイズをタップします。



バッテリー残量 LED

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ● ●	76~100%

点滅パターン	バッテリー残量
● ● ● ○	51~75%
● ● ○ ○	26~50%
● ○ ○ ○	0~25%

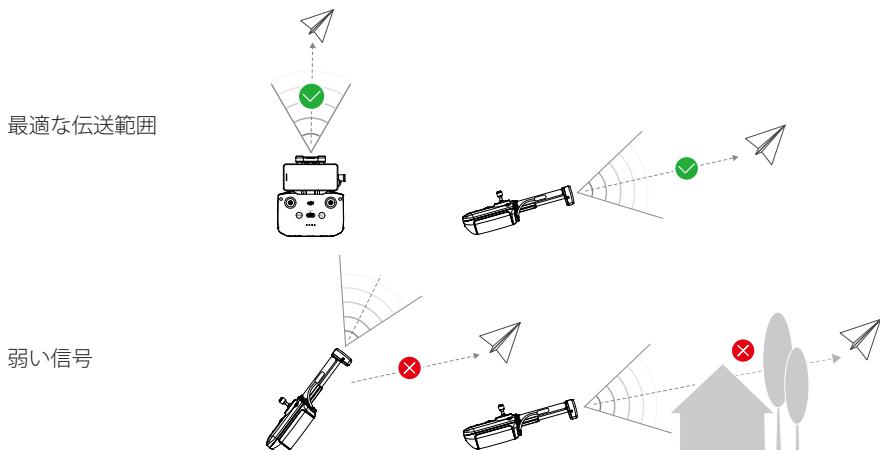
送信機のアラート

送信機は RTH 中にアラート音を鳴らします、これを止めることはできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が極度に低くなると、アラート音はキャンセルできません。

送信機の電源が入っている状態で、機体またはモバイル機器の DJI Fly アプリに接続せずに一定時間操作しないと、アラート音が鳴ります。アラート音が止まると、送信機は自動的に電源がオフになります。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、アンテナと機体の位置関係が下の図で示すような状態になっているときに最も信頼性が高くなります。信号が弱い場合は、送信機の方向設定を調整するか、機体を送信機に近づけてください。



- ⚠️ • 送信機と同じ周波数で動作する他のワイヤレス端末を使用しないでください。送信機が信号干渉を受ける場合があります。

- 飛行中において送信信号が弱い場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。姿勢インジケーターの表示に従って、送信機の向きを調整して、機体が最適な伝送範囲内にあることを確認してください。
-

送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。別々に購入した場合には以下の手順に従って機器をリンクさせてください。

- 機体と送信機の電源を入れます。
- DJI Fly を開始します。
- カメラビューで、**…> 制御（コントロール）> 機体の再ペアリング**をタップします。リンク中、送信機はビープ音を鳴らします。
- 機体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。リンクの準備ができると、機体はビープ音を鳴らし、バッテリー残量 LED が連続して点滅します。リンクが正常に行われたら、送信機がビープ音を 2 回鳴ります。

-
-  • リンクは、送信機が機体から 0.5 m 以内にある状態で行ってください。
• 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
-

付録

6 付録

6.1 仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

<https://www.dji.com/flip/specs>

6.2 互換性

互換性のある製品については、次のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.dji.com/flip/faq>

6.3 ファームウェア更新

機体と送信機のファームウェアを更新するには、DJI Fly または DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

使用 DJI Fly

機体や送信機を DJI Fly に接続したときに新しいファームウェア更新がある場合、通知されます。更新を開始するには、送信機またはモバイル端末をインターネットに接続して画面上の指示に従います。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。インターネット接続が必要となります。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

機体と送信機のファームウェアを個別に更新するには、DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

1. デバイスの電源を入れます。USB-C ケーブルで、デバイスをパソコンに接続します。
2. DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJI アカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にある**ファームウェア更新**をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアがダウンロードされるまで待ちます。ファームウェアの更新が自動的に開始されます。ファームウェア更新が完了するまで待ちます。

-
- ⚠ • バッテリーファームウェアは、機体のファームウェアに含まれています。必ずすべてのバッテリーを更新してください。
- 必ず記載されている全ての手順に従って、ファームウェアを更新してください。手順に従わない場合には更新に失敗する場合があります。

- 更新中はパソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。
- 更新中は USB-C ケーブルの接続を外さないでください。
- ファームウェア更新には約 10 分かかります。更新処理中、ジンバルがゆっくりと動作し、機体ステータスインジケーターが点滅して機体が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまでしばらくお待ちください。

ファームウェア更新情報については、以下のリンクにアクセスし、『リリースノート』を参照してください。

<https://www.dji.com/flip/downloads>

6.4 フライトレコーダー

フライトテlemetry、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどのフライトデータは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して、データにアクセスできます。

6.5 アフターサービス情報

アフターサービスピリシー、修理サービス、サポートについては、<https://www.dji.com/support> をご確認ください。



連絡先

DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。

最新版は下記よりダウンロードしてください



<https://www.dji.com/flip/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（DocSupport@dji.com宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。

Copyright © 2025 DJI All Rights Reserved.